指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書第(26)集

遺跡範囲確認調査報告書

橋牟礼川遺跡XIII

1998年3月

指宿市教育委員会

序　　文

本書は、国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡の北東側近接地ならびに市内の重要遺跡の確認調査成果をまとめたものです。

今回の調査によって、橋牟礼川遺跡と同様の文化層の堆積が確認され、古墳時代においては柱穴群が検出されました。

また、迫田遺跡からは、古墳時代の土器集中廃棄所が検出され、橋牟礼川遺跡と同時期の古墳時代集落の存在が示唆されました。

敷領遺跡からは、平成６年度の確認調査に引き続き、874年の開聞岳火山灰で埋没した水田が発見されその広がりが確認されました。

このように、指宿市内の各地から次々と遺跡が発見され、本市の古代の歴史が刻々と明らかになってきています。

本書が皆様に活用され、将来に守り伝えられるべき遺跡の保存に役立てられることを願ってやみません。この調査にご指導、ご協力を頂きました関係各位、ならびに地元の皆様に対し心から感謝申し上げ、序文にかえさせて頂きます。

平成10年３月

指宿市教育委員会 教育長　山下隼雄

例　　言

1．本書は、平成９年７月１日から平成10年３月31日まで実施した鹿児島県指宿市に所在する橋牟礼川遺跡、迫田遺跡、敷領遺跡の確認調査報告書である。

2．調査、及び整理・報告書作成に要した経費3,000,000円のうち、1／2は国、1／4は県からの補助を得て行った。

3．調査は、指宿市教育委員会が実施し、下山　覚、中摩　浩太郎、渡部徹也、鎌田洋昭が担当した。
各調査の原図・製図作成者については、(原、製)として目次に記す。編集・執筆は渡部徹也が担当し、製図作業において、前田恵子、清　秀子、上高原聡の協力を得た。

4．本書のレベルはすべて絶対高である。また、図中に用いられている座標値は国土座標系第９系に準ずる。

5．本書の層位の色調は、「標準土色帖」1990年版に基づく。

6．調査で得たすべての成果については、指宿市考古博物館「時遊館ＣＯＣＣＯはしむれ」でこれを保存・活用している。

調査の組織

発掘調査及び整理作業は以下の組織で行われた。

発掘調査主体	指宿市教育委員会	
発掘調査責任者	指宿市教育委員会教育長	山　下　隼　雄
発掘調査担当課	指宿市教育委員会社会教育課長	室　屋　昭　男
	指宿市教育委員会社会教育課係長	尾　辻　　隆
	指宿市教育委員会社会教育課派遣社会教育主事	原　口　　洋
	指宿市教育委員会社会教育課文化係長	下玉利　　泉
	指宿市教育委員会社会教育課文化係主査	小　村　重　志
	指宿市教育委員会社会教育課主査	宮　原　智　子
発掘調査員	指宿市教育委員会社会教育課文化係主事	下　山　　覚
	同　　上	中　摩　浩太郎
	同　　上	渡　部　徹　也
	同　　上	鎌　田　洋　昭
	同　　上	植　村　裕　子
発掘調査作業員	安留和子、渡瀬ヤナギ、浜崎イチ子	
整理作業員	阿久根ノリ子、吉留紀代子、井上ヒサ子、東　冨子、林山イネ、竹下カツエ、下之園トシ子、新小田千恵子、中間清子、徳留逸子、清　秀子、前田恵子	

本　文　目　次

橋牟礼川遺跡範囲確認調査(南丹波遺跡地点編)
第１章　遺跡の位置と環境 …… 1
第２章　重要遺跡範囲確認調査の成果 …… 3
第３章　遺跡の層位 …… 4
第４章　確認調査 …… 5
迫田遺跡編
第１章　遺跡の位置と環境 …… 9
第２章　確認調査 …… 10
敷領遺跡編
第１章　遺跡の位置と環境 …… 43
第２章　確認調査 …… 44

挿　図　目　次

第１図　遺跡所在位置図(S＝1／25,000)(㊫渡部) …… 1
第２図　調査地点位置図(S＝1／500)(㊫渡部) …… 2
第３図　橋牟礼川遺跡標準層位模式図（㊧下山、㊫清、前田） …… 4
第４図　調査地点位置図(S＝1／2,500)(㊧渡部) …… 5
第５図　調査区層位断面図(S＝1／40)(㊧渡部、㊫清、前田) …… 5
第６図　柱穴検出状況図(S＝1／50)(㊧渡部、㊫清、前田) …… 6
第７図　古墳時代柱穴平面図・断面図(S＝1／20)(㊧渡部、㊫清、前田) …… 6
第８図　迫田遺跡調査地点図(S＝1／2,500)(㊧渡部) …… 9
第９図　層位模式図(㊧渡部、㊫清、前田) …… 11
第10図　層位断面図(西壁)(S＝1／40)(㊧渡部、鎌田、㊫清、前田) …… 12
第11図　竪穴住居断面図(S＝1／30)(㊧渡部、鎌田、㊫清、前田) …… 13
第12図　調査地点全体図(S＝1／600)(㊧渡部、㊫清、前田) …… 14
第13図　溝状遺構断面図(S＝1／20)(㊧鎌田、㊫清、前田) …… 15－16
第14図　土器集中廃棄所断面図グループ１(S＝1／20)(㊧渡部、㊫清、前田) …… 17－18
第15図　土器集中廃棄所断面図グループ３(S＝1／20)(㊧渡部、㊫清、前田) …… 19－20
第16図　グループ１土器集中廃棄所出土遺物実測図①(S＝1／3)(㊧渡部、㊫清、前田) …… 21
第17図　グループ１土器集中廃棄所出土遺物実測図②(S＝1／3)(　同　上　) …… 22
第18図　グループ１土器集中廃棄所出土遺物実測図③(S＝1／3)(　同　上　) …… 23
第19図　グループ２土器集中廃棄所出土遺物実測図(S＝1／3)　(　同　上　) …… 24
第20図　グループ３土器集中廃棄所出土遺物実測図①(S＝1／3)(　同　上　) …… 25
第21図　グループ３土器集中廃棄所出土遺物実測図②(S＝1／3)(　同　上　) …… 26
第22図　グループ３土器集中廃棄所出土遺物実測図③(S＝1／3)(　同　上　) …… 27
第23図　グループ３土器集中廃棄所出土遺物実測図④(S＝1／3)(　同　上　) …… 28
第24図　調査地点位置図(S＝1／2,000)(㊫渡部) …… 43
第25図　層位模式図(㊧渡部、㊫清、前田) …… 44
第26図　層位断面図(西壁)(S＝1／40)(㊧渡部、㊫清、前田) …… 45
第27図　水田跡平面図(S＝1／50)(㊧埋蔵文化財サポートシステム、㊫渡部、清、前田) …… 47
第28図　水田跡２㎝コンタ図(S＝1／50)(　同　上　) …… 48
第29図　奈良～平安時代柱穴検出状況図(S＝1／50)(㊧渡部、埋蔵文化財サポートシステム、㊫清、前田) …… 49

第30図　奈良～平安時代柱穴平面図・断面図①(S=1／20)(㊟渡部、㊫清、前田) …… 50
第31図　奈良～平安時代柱穴平面図・断面図②(S=1／20)(㊟渡部、㊫清、前田) …… 51
第32図　古墳時代柱穴検出状況図(S=1／50)(㊟埋蔵文化財サポートシステム、㊫渡部、清、前田) …… 52
第33図　古墳時代柱穴平面図・断面図(S=1／20)(　　同　　上　　) …… 53

表　目　次

表1　遺跡範囲確認調査一覧 …… 3
表2　古墳時代柱穴法量表 …… 4
表3　遺物観察表1 …… 30
表4　遺物観察表2 …… 31
表5　遺物観察表3 …… 32
表6　遺物観察表4 …… 33
表7　奈良～平安時代柱穴法量表 …… 46
表8　古墳時代柱穴法量表 …… 53

写真図版目次

Fig. 1　古墳時代柱穴検出状況と層位断面 …… 8
Fig. 2　グループ3土器集中廃棄所調査状況 …… 11
Fig. 3　グループ3土器集中廃棄所 …… 11
Fig. 4　迫田遺跡1トレンチ調査状況 …… 35
Fig. 5　グループ3土器集中廃棄所西側断面の状況 …… 35
Fig. 6　軽石製陰石出土状況 …… 35
Fig. 7　グループ3土器集中廃棄所断面の状況 …… 36
Fig. 8　溝状遺構断面の状況(1) …… 36
Fig. 9　溝状遺構断面の状況(2) …… 36
Fig. 10　遺物写真① …… 37
Fig. 11　遺物写真② …… 38
Fig. 12　遺物写真③ …… 39
Fig. 13　遺物写真④ …… 40
Fig. 14　遺物写真⑤ …… 41
Fig. 15　遺物写真⑥ …… 42
Fig. 16　青コラ上面の柱穴探査状況 …… 44
Fig. 17　水田平面 …… 54
Fig. 18　水田検出状況　畦A …… 55
Fig. 19　水田検出状況　畦B …… 55
Fig. 20　畦A断面と水田層の状況 …… 55
Fig. 21　青コラ上面柱穴検出状況 …… 56
Fig. 22　調査区土層の状況 …… 56
Fig. 23　古墳時代柱穴検出状況 …… 56

橋牟礼遺跡範囲確認調査

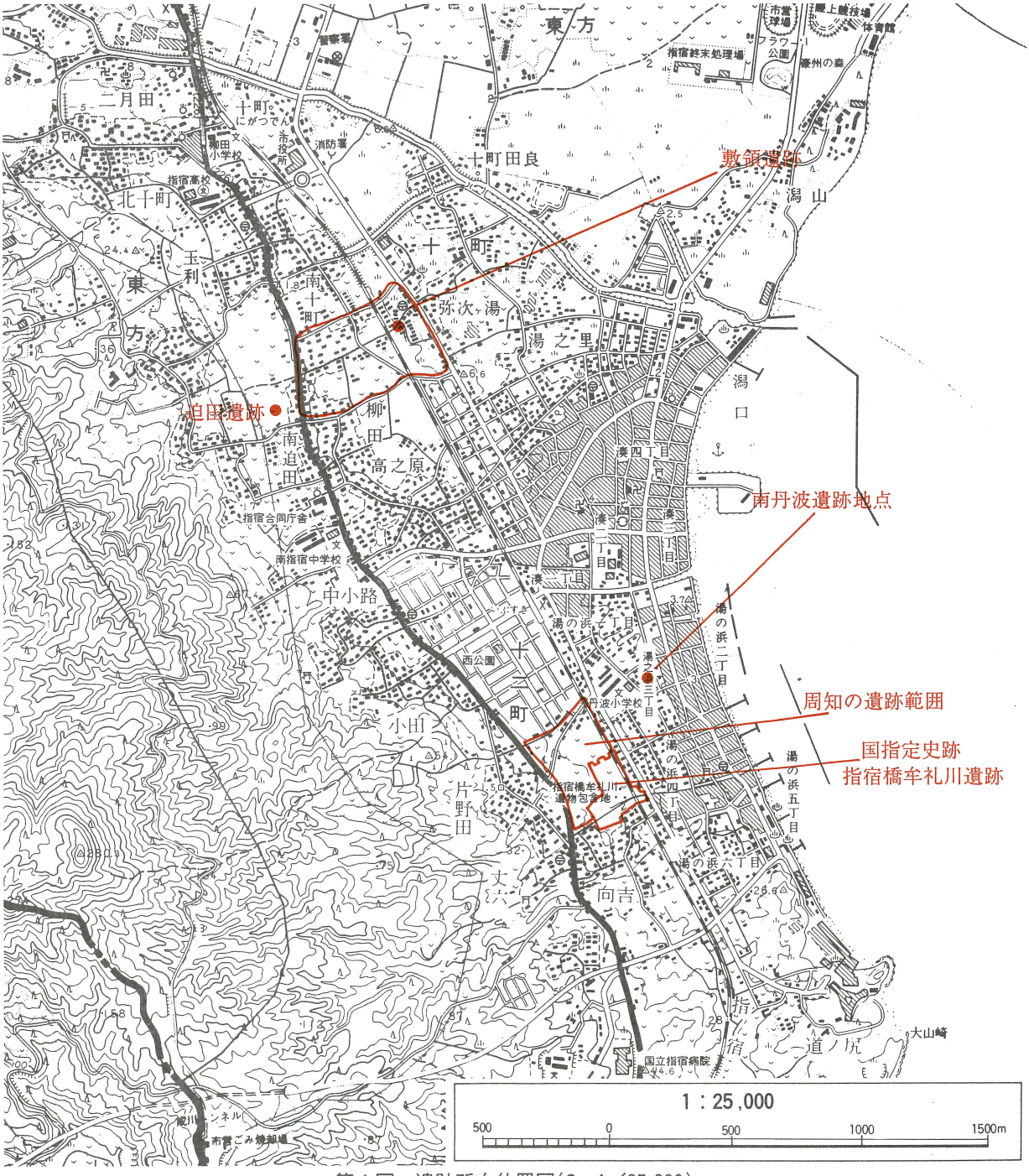
（南丹波遺跡地点編）

第１章　遺跡の位置と環境

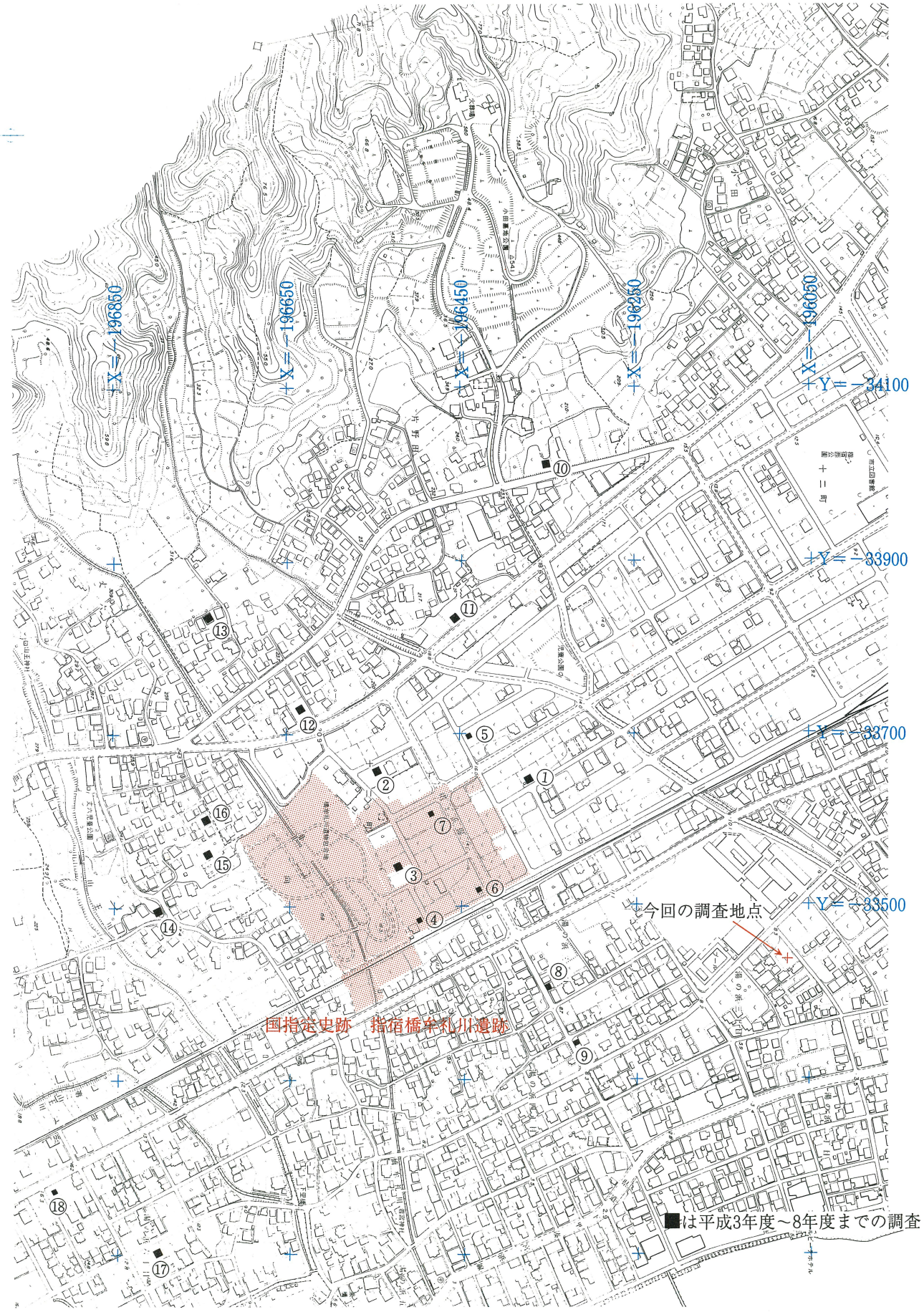
国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡は、指宿市十二町下里に位置する。遺跡は、山裾から海岸に向けて緩やかに傾斜する海抜10～20ｍ前後の火山性扇状地上にあり、遺跡の南西約10kmにある開聞岳噴火によって、度重なる被害を受けてきた火山災害遺跡として知られている。

範囲確認調査は、平成３年度から年次的に実施され、その成果は表１に記す通りである。平成７年度には、調査成果に基づき、約1.8haが国指定史跡の追加指定を受けた。

７年度以降は、これまでに引き続き国指定史跡周辺の遺跡の所在と性格を把握するために確認調査を実施しており、本年度は国指定史跡北側の近接地点にトレンチを設定した。なお、調査地点は従来、南丹波遺跡と呼称されているが、今回は確認調査の目的に鑑み、橋牟礼川遺跡の南丹波遺跡地点と仮称し報告する。



第１図　遺跡所在位置図(S＝1／25,000)



第２図　調査地点図位置図(S＝1／500)

第2章　重要遺跡範囲確認調査の成果

第1節　これまでの調査概要と課題

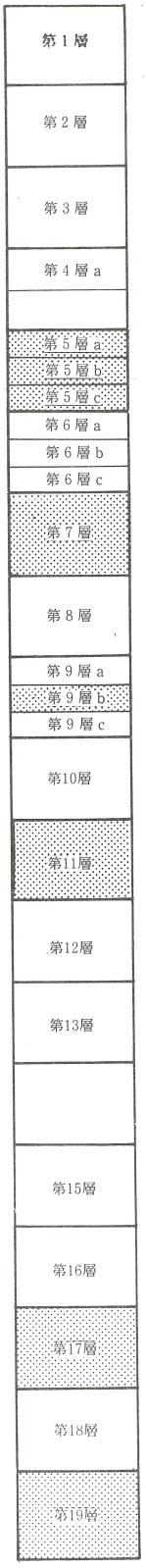
平成3年にスタートした遺跡確認調査も，今回で第6次を迎えた。平成8年3月28日には，これまでの調査成果も踏まえ昭和54年に公有地化された2.36haに加え，新たに北側隣接地1.8haが，国指定史跡として指定された。先の2.36haについては整備も完了し，現在指宿市考古博物館「時遊館 COCCOはしむれ」とともに活用されている。また，国指定史跡周辺についても山手の西側から南西側，北側から北東側にかけて行われた確認調査で遺跡の存在が確認され，国指定史跡と同質の遺跡が広がることがわかってきた。

表－1　遺跡範囲確認調査一覧

年　度	調査面積及び調査地点No.	調査期間	調査担当	成果の概要	備　考
平成3年度	340m² ①	平成4年2月17日 ～ 平成4年3月31日	下山　覚 知花　一正 渡部　徹也	平安時代の畝跡，道路跡，古墳時代柱穴群，道路跡	市単費
平成4年度	80m² ②～⑦	平成4年8月17日 ～ 平成5年1月26日	下山　覚 知花　一正 渡部　徹也	平安時代の畝跡，古墳時代住居跡，道路跡，土器集中廃棄所	国庫補助
平成5年度	50m² ⑧～⑩	平成6年1月17日 ～ 平成6年3月31日	下山　覚 中摩浩太郎 渡部　徹也 鎌田　洋昭	中世の畑跡，平安時代の道路跡，古墳時代柱穴群，道路跡	国庫補助
平成6年度	101m² ⑪～⑬	平成6年7月15日 ～ 平成7年3月31日	下山　覚 中摩浩太郎 渡部　徹也 鎌田　洋昭	中世～近世墓，古墳時代住居跡，柱穴群	国庫補助
平成7年度	106m² ⑭～⑯	平成7年9月17日 ～ 平成8年3月31日	下山　覚 中摩浩太郎 渡部　徹也 鎌田　洋昭	中世階段状遺構，弥生時代終末～古墳時代祭祀遺構，古墳時代柱穴群	国庫補助
平成8年度	50m² ⑰，⑱	平成8年1月17日 ～ 平成9年3月31日	渡部　徹也 鎌田　洋昭	古墳時代，平安時代植物遺体サンプル，古墳時代成川式土器	国庫補助

※調査地点No.，及び成果の概要中の（　）内のNo.は，それぞれ第10図中のトレンチと一致する。

第3章　遺跡の層位



第1層　黒褐色土層(表土)　旧耕作地である。現代の層である。

第2層　暗灰色土層　近代～現代に至る遺物が包含されている。旧耕作土でもある。

第3層　黒灰色土層　近世～近代に至る遺物が包含されている。旧耕作地でもある。

第4層　黒色土層　中世(鎌倉～室町時代)の遺物包含層。黒ボタのような腐植土が発達している。厚さは20～50cm前後で，宋代の青磁や白磁，回転糸切り底の土師器などが検出される。

第5層a　紫灰色火山灰層(紫コラ)　平安時代開聞岳噴出物堆積層で，フォール・ユニットを形成する。第5層cと一連の噴火による噴出物とする考えがある。

第5層b　紫灰色火山灰二次堆積物　第5層c(貞観16年開聞岳噴出物)の二次堆積層で，水流作用で生成されたものと考えられ砂が多く混在し，ラミナが発達する。

第5層c　紫灰色火山灰層(紫コラ)　貞観16年3月4日(西暦874年)の開聞岳噴火に伴う噴出物堆積層に比定さてれいる。極めて固く団結し，フォール・ユニットが認められる。

第6層a～c　暗オリーブ褐色土層　奈良～平安時代の遺物包含層で，その上面は貞観16年の開聞岳噴出物で被覆されていることから，貞観16年の火山噴出物降下直前の旧地表形状をそのままとどめていると考えられる。第6層は腐植化が進行しているa，aに比べ明るいオリーブ褐色を呈するb，cは第7層の二次堆積層と3層に分層が可能である。

第7層　青灰色固結火山灰層(青コラ)　7世紀最終四半世紀頃に比定される開聞岳噴出物堆積層で，下部は火山活動初期のスコリアが2～3cm程度堆積する。

第8層　橙色土層　砂や池田湖起源の噴出物，軽石を含む扇状地堆積層。古墳時代末頃の土石流堆積物と考えられる。

第9層　暗褐色土層　古墳時代の遺物包含層である。小礫や池田湖降下軽石を含みやや粘質である。厚さは50cm～1m程度である。第9層の中位から遺構が掘り込まれる場合などは，埋土色調，粒度から判別することが難しい。第9層の形成は，基本的に扇状地堆積物であるが，集落形成等の土地利用による攪乱や河川の氾濫による要因が複合していると考えられる。

第10層　赤橙褐色粘質土層　弥生中～後期の遺物包含層で，扇状地堆積物と考えられる。

第11層　暗紫色火山灰層(暗紫コラ)　弥生時代中～後期に降下した開聞岳噴出物堆積層。

第12層　明褐色土層　弥生時代前～中期にわけての遺物包含層で粘性が強い。

第13層　暗褐色小石混シルト質土層　主に刻目突帯文土器を包含する層で，小礫を含む。

第14層　赤褐色小石混シルト質土層　主に縄文時代晩期の遺物を含む。黒川武士器が主体。

第15層　赤褐色砂粒混シルト質土層　主に縄文時代晩期の遺物を含むが，後期の遺物も混在する。

第16層　黒褐色橙色パミス混シルト質土層　主に縄文時代後～晩期の遺物を含む。

第17層　暗青灰色火山灰層(黄コラ)　縄文時代後期の開聞岳噴出物堆積層。

第18層　灰褐色砂質土層　縄文時代後期遺物包含層で下部は池田湖火山灰に変化する。

第19層　池田湖火山灰層　灰色～黄灰色を呈する層で，約5,500年前の池田カルデラ形成期の火山活動に伴い堆積したものと考えられている。

指宿市教育委員会『第Ⅳ章　遺跡の層序』「橋牟礼川遺跡Ⅲ」を抜粋，一部改変。

第3図　橋牟礼川遺跡標準層位模式図

第4章　確　認　調　査

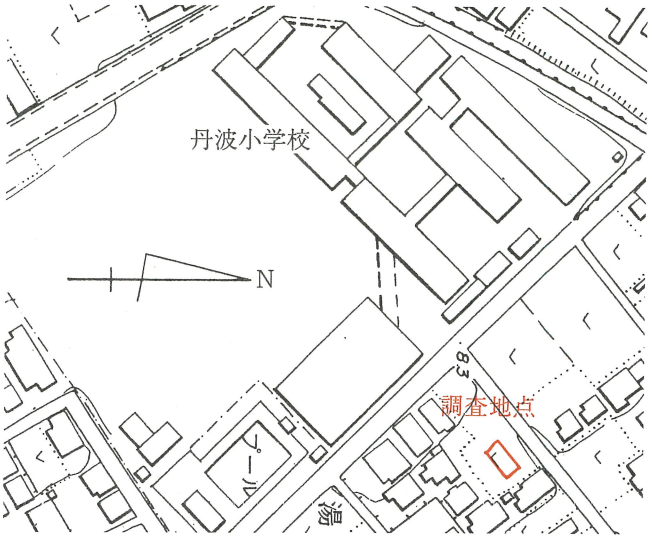
第1節　調査成果

(1)　調査地点の概要

南丹波遺跡は、昭和27年に発行された「南薩民俗」第1号に指宿地方の新発見遺跡として遺跡地名表とその解説が掲載され存在が知られるようになった。現在の丹波小学校南側の字小牟礼原から、成川式土器や石器、縄文土器などに加え、魚の骨格が描かれた軽石製加工品が採集されている。

今回の調査は、丹波小学校東側、国指定史跡から約500mの地点に5×10mのトレンチを設定した。

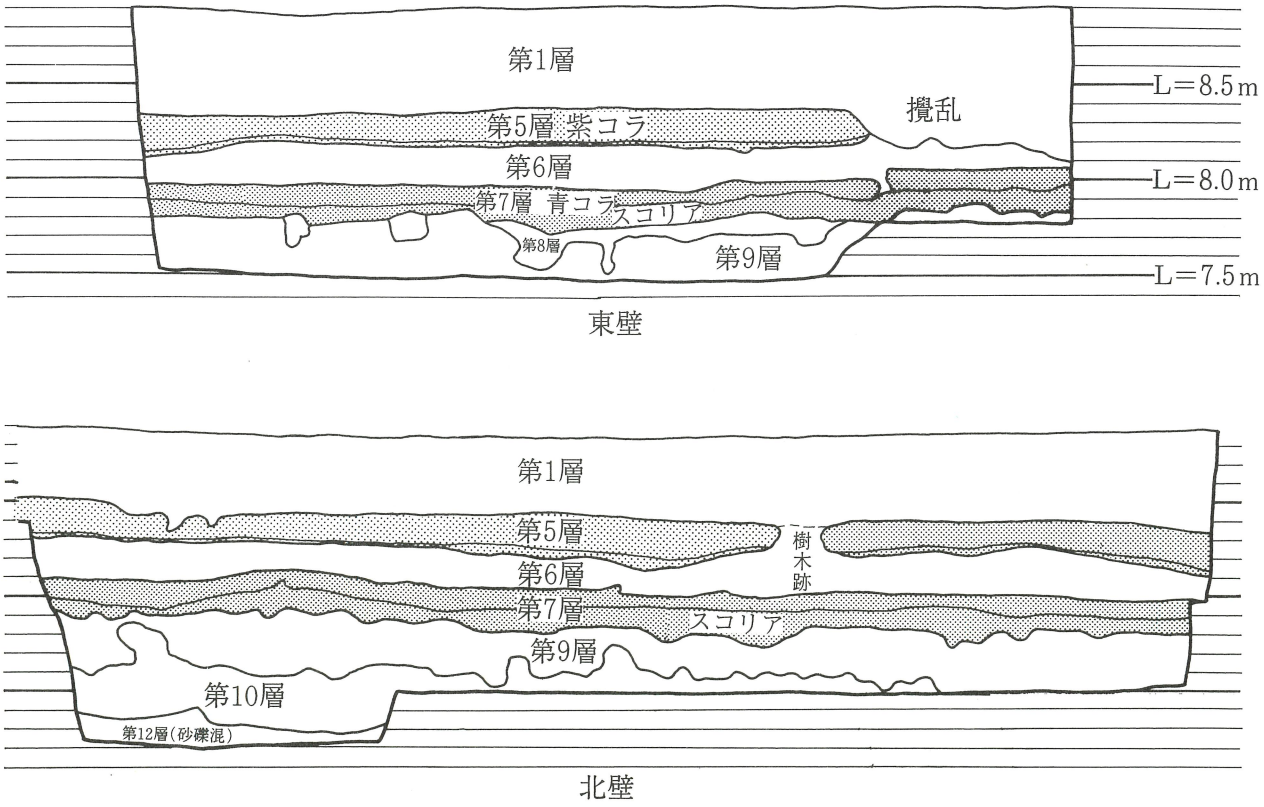
橋牟礼川遺跡同様、開聞岳火山灰、奈良～平安時代の包含層、古墳時代の包含層を確認し、古墳時代の柱穴群を検出した。遺物の出土は見られなかった。



第4図　調査地点位置図(S=1／2,500)

(2)　層　　位

第1層、第5層、第6層、第7層、第8層、第9層、第10層、第12層の8層を確認した。第5層の紫コラ上面は現代の耕作によって削平されており本来の層厚ではないが、20cm前後が残存していた。北側断面に樹木跡が確認され、

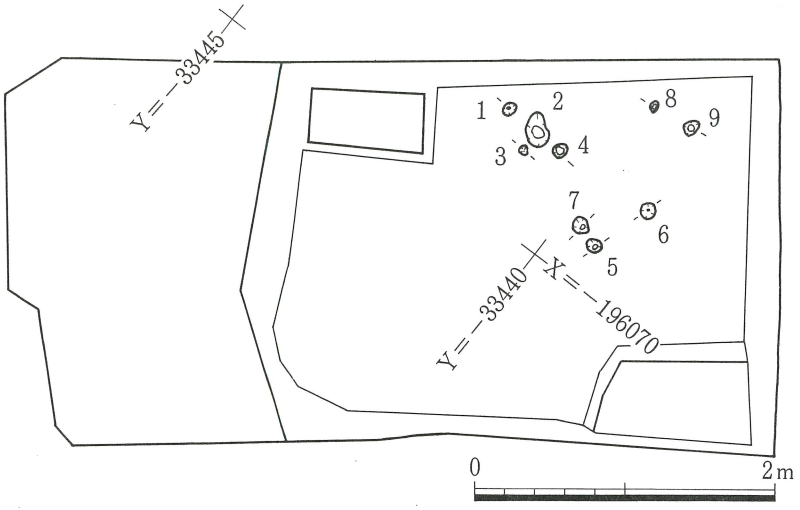


第5図　調査区層位断面図(S=1／40)

火山灰直下からも多量の木の葉などの植物遺体が出土した。第６層上面においては、遺構は確認されなかったことからも、この地点は、被災時は畠などに開墾された状態ではなかったことが伺える。第８層は、土石流堆積物であるがここでは部分的にしか確認されず、下層の第９層上に直接青コラが被覆している状況を看取できた。第９層と第10層は不整合がみられ、第10層の下層には、砂礫層が堆積しており、付近河川の氾濫があったものと考えられる。

(3) 遺構について

第10層上面において、第９層を埋土とする柱穴群を確認した。部分的な検出のため、建物遺構の一部であるのかどうかは判然としない。No.２はやや径が大きいが、その他は、直径20cm前後のものである。それぞれの検出面での法量については、表２にまとめた。

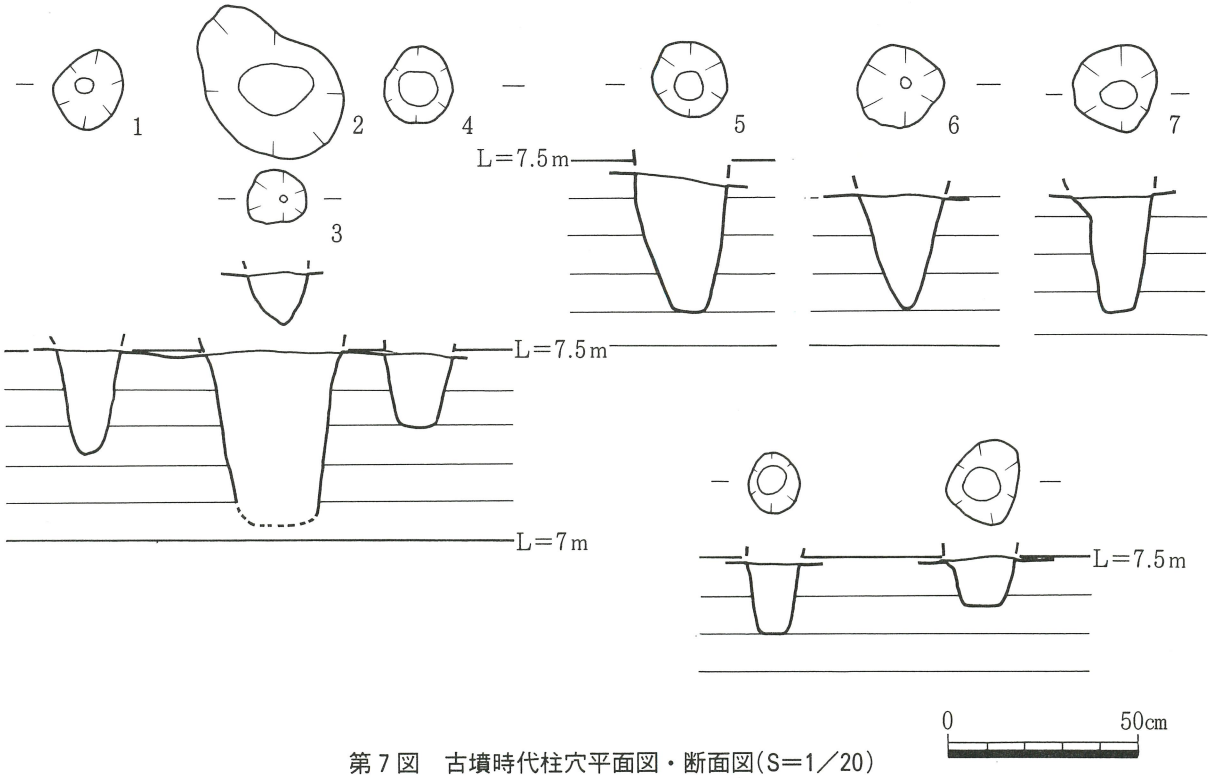


第６図　柱穴検出状況図(S=1／50)

表－２　古墳時代柱穴法量表

単位：cm

No.	直　径	短　径	深　さ	No.	直　径	短　径	深　さ
1	２１	１８	２７	6	２３	２０	３０
2	４５	３１	４６	7	２３	２１	３０
3	１６	１３	１３	8	１６	１３	１８
4	２０	１８	１９	9	２２	１９	１３
5	２１	１９	３５	−	−	−	−



第７図　古墳時代柱穴平面図・断面図(S=1／20)

(4) ま と め

今回の調査において古墳時代の柱穴群が検出され、橋牟礼川遺跡と同時期の古墳時代集落の広がりが示唆された。南丹波遺跡については平成6年度と9年度の2回にわたり、今回の調査地点の南側約100mに走る市道拡幅工事に伴う発掘調査が行なわれ、古墳時代の柱穴群や多量の遺物が発見されている。今回は調査地点が1箇所のため今後も詳細に遺跡の広がりを確認する必要があるが、橋牟礼川遺跡の広がりの状況を鑑みると今回の調査地点は古墳時代集落の縁辺にあたり、その中心はやはり南の国指定史跡側にあるものと考えられる。

また、昭和27年に多量の遺物が採集された字小牟礼地区に橋牟礼川遺跡とは別の単位集落が存在するのかどうかも検討課題の一つである。

ところで、昭和60年から平成3年まで実施された区画整理事業に伴う橋牟礼川遺跡の調査では、切り合いも含めて150基を超える竪穴住居が検出されているが、その集落維持に必要な生産遺構の広がりや墓域の状況については精査が必要である。こうした課題解決の手掛かりを得るためにも継続した確認調査が必要であり、それらの成果の積み重ねが、橋牟礼川遺跡のより正確な姿を浮かび上がらせていくことは自明であろう。

SUMMARY

We found many pits of the Kofun age in the present survey. It shows us the expanse of a village of the Kofun age which exsisted at the same time as the Hashimuregawa site.
At 100m south from the present survey point we surveyed at the Minamitanba site in 1994 and 1997, we found many pits and remains.

Though we have to comfirm the detail and expanse of the site on account of one point in the survey. The situation of the expanse of the Hashimuregawa site shows us that the present survey point should be at the edge of the village of the Kofun age, and that the center of it should be at the southern part around the National Archeaological Site.
There is another village that is different from the village at the Hashimuregawa site in the Komure-Area that had plenty of remains in 1952. Incidentally, we found more than 150 pit houses at the Hashimuregawa site in the survey from 1985 to 1991.
We still do know much about the expense of excavating the site and the tomb Area, so we have to survey in ditail the Hashimuregawa site from now on. In order to solve this problem, we need to continue the survey. It is self-evident that these surveys show us a clearer out line of the Hashimuregawa site.

(original Tetsuya Watanabe, proof-reading Basalaj Nikolai Piper)

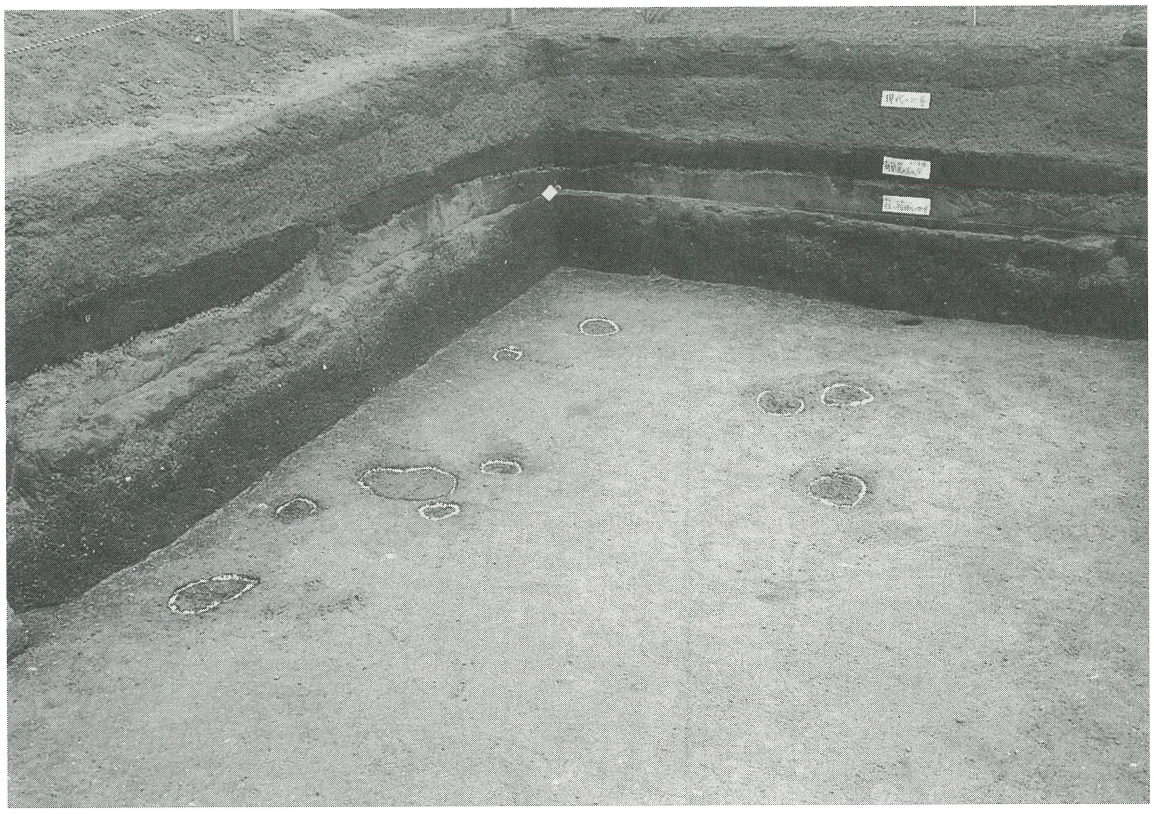


Fig１．古墳時代柱穴検出状況と層位断面

迫田遺跡編

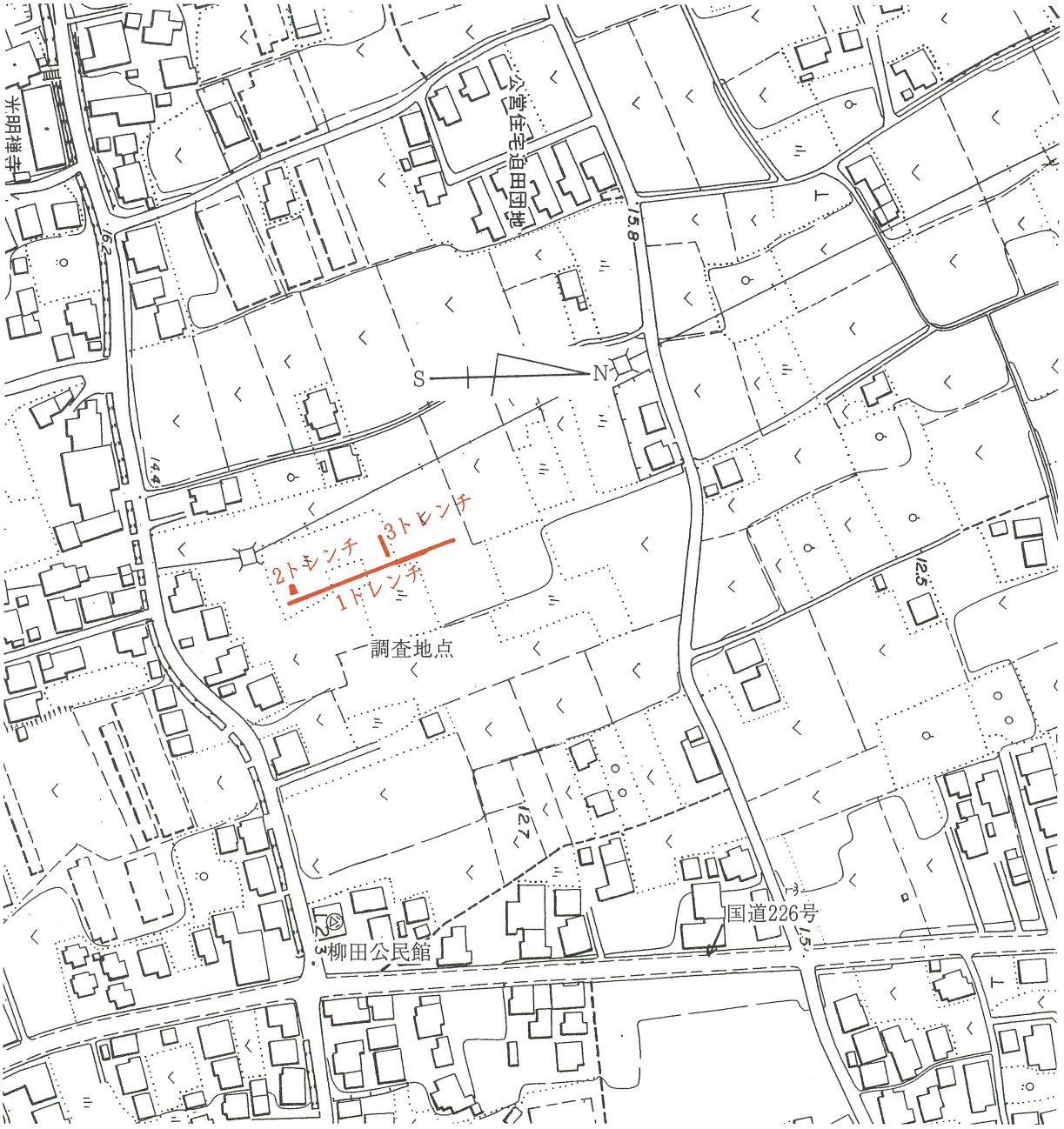
第１章　遺跡の位置と環境

迫田遺跡は、指宿市十二町堂ノ後一帯に所在する。遺跡は、山裾に近い緩やかに傾斜する海抜20ｍ前後の火山性扇状地上にあり、国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡から北西約２km離れた地点に位置している。調査地点付近には小河川である柳田川が流れるなど橋牟礼川遺跡の立地とよく似ている。

迫田遺跡の周辺には、南側に南迫田遺跡、北東に敷領遺跡が近接しているが、今回遺跡が発見された地点については、これまでその存在が明らかではなかった。

付近一帯は現在畠地であるが、現地表下50cm前後に堆積している「コラ」と呼称される開聞岳火山灰（平安時代の紫コラにあたる）が農作業の弊害になるため一部を除去したとの話も地元の人々から聞かれることから、開聞岳火山灰が残存しており、火山災害遺跡の可能性も残されている。

今回の調査では、古墳時代の土器集中廃棄所など集落の一部を確認したが、発見の経緯、調査概要については次章に記すとおりである。



第８図　迫田遺跡調査地点図(S＝1／2,500)

第2章　確　認　調　査

第1節　調査に至る経緯

(1)　遺跡発見の経緯

平成９年11月１日（土）、市民の方から、指宿市十二町堂ノ後の民間宅地造成に伴う水道管埋設工事現場から土器や石器が出土しているので確認してほしいとの連絡が教育委員会社会教育課（時遊館ＣＯＣＣＯはしむれ）に入った。文化係長、埋蔵文化財担当職員が現地に向かったところ、幅１ｍ、長さ40ｍにおよぶ水道管埋設部分と掘りあがった廃土中に多量の土器が含まれており遺跡地であることが確認された。当日は土曜日で工事は行なわれていなかったため、施行業者に連絡をとり工事中発見に関る手続きと緊急調査が必要なことを説明した。

(2)　調査の概要

施行主である㈱川路建設との協議の結果、水道管埋設工事部分については確認調査を実施することとなった。掘削にあたって、㈱川路建設が重機使用を負担した。協議の確認事項、その後の遺跡地における工事については、下記のとおり協定書を取り交わした。

調査期間　　平成９年11月10日（月）～ 14日（金）

調査面積　　80㎡、基本的には第９層（古墳時代包含層）までの調査。部分的に第10層まで確認。

平成９年12月16日

埋蔵文化財取扱いに関する誓約書

指宿市教育委員会教育長 様

申請者　住所　鹿児島県指宿市池田3176-3
株式会社 川路建設
氏名　代表取締役 川路　豊

下記事業地では、埋蔵文化財の存在が確認されていますので、以下のとおり誓約いたします。

記

１．誓約事項

（１）　建築工事、その他開発事業の施行にあたっては、文化財保護法に基づき埋蔵文化財発掘届を提出するとともに、事前に教育委員会と協議し、文化財保存について協力します。工事実施にあたっては慎重にこれを行い埋蔵文化財を発見した際は、速やかに教育委員会に届出ます。

（２）　今後事業計画が変更したときは、そのつど教育委員会と協議し、文化財保存について協力します。

（３）　当該地の譲渡に際しては、遺跡の存在を周知させます。

２．事業地　　指宿市十二町堂ノ後一帯（別添地図の範囲）

３．添付資料　　事業計画の概要を示す書類および図面 等

第２節　調査の成果

(1)　調査の概要

確認調査は、幅１ｍ、深さ1.5ｍ、長さ66ｍのトレンチを設定し行った。

各遺構群については、工事による掘削でほとんどが壊されており、平面の状態を正確に捉えることができなかったため、断面の状況を中心に探査した。検出した遺構は、竪穴住居跡２基（断面確認）、土器集中廃棄所３ヶ所、溝状遺構１箇所（断面確認）である。

土器集中廃棄所は、調査区南側の１グループと約40ｍ離れた北側の３グループ、さらに30ｍ程北から検出された２グループにまとまった。また、グループ１、３の土器集中廃棄所については、西側への広がりを確認するため、それぞれ先行トレンチを設けた。詳細については、後述したい。

Fig２．グループ３　土器集中廃棄所調査状況

Fig３．グループ３　土器集中廃棄所

(2)　層　　位

迫田遺跡の層位は、基本的には橋牟礼川遺跡の層位と変わらないため、下記に調査において確認した土層の特徴を記したい。なお、各層の内容については、先述した橋牟礼川遺跡基本層序を参照されたい。

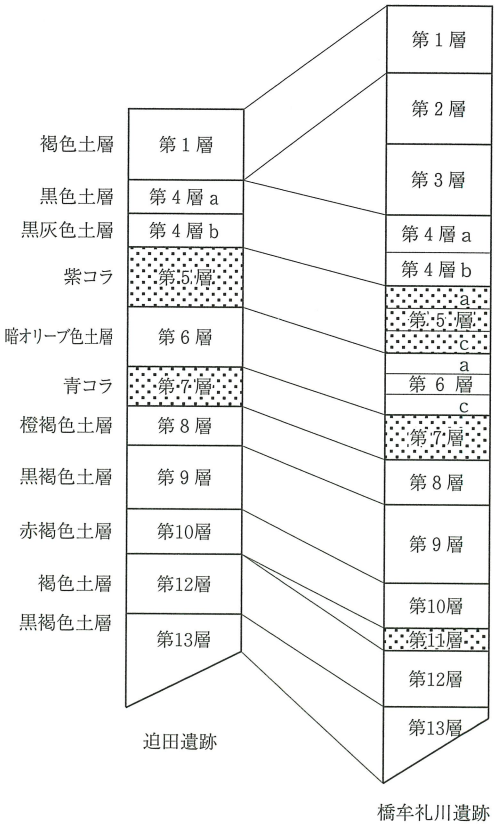
第１層、第４層、第５層、第６層、第７層、第８層、第９層、第10層の８層を確認した。

第４層は中世の時期に比定できる黒色津地層であるが調査範囲からの遺物・遺構の出土はみられなかった。

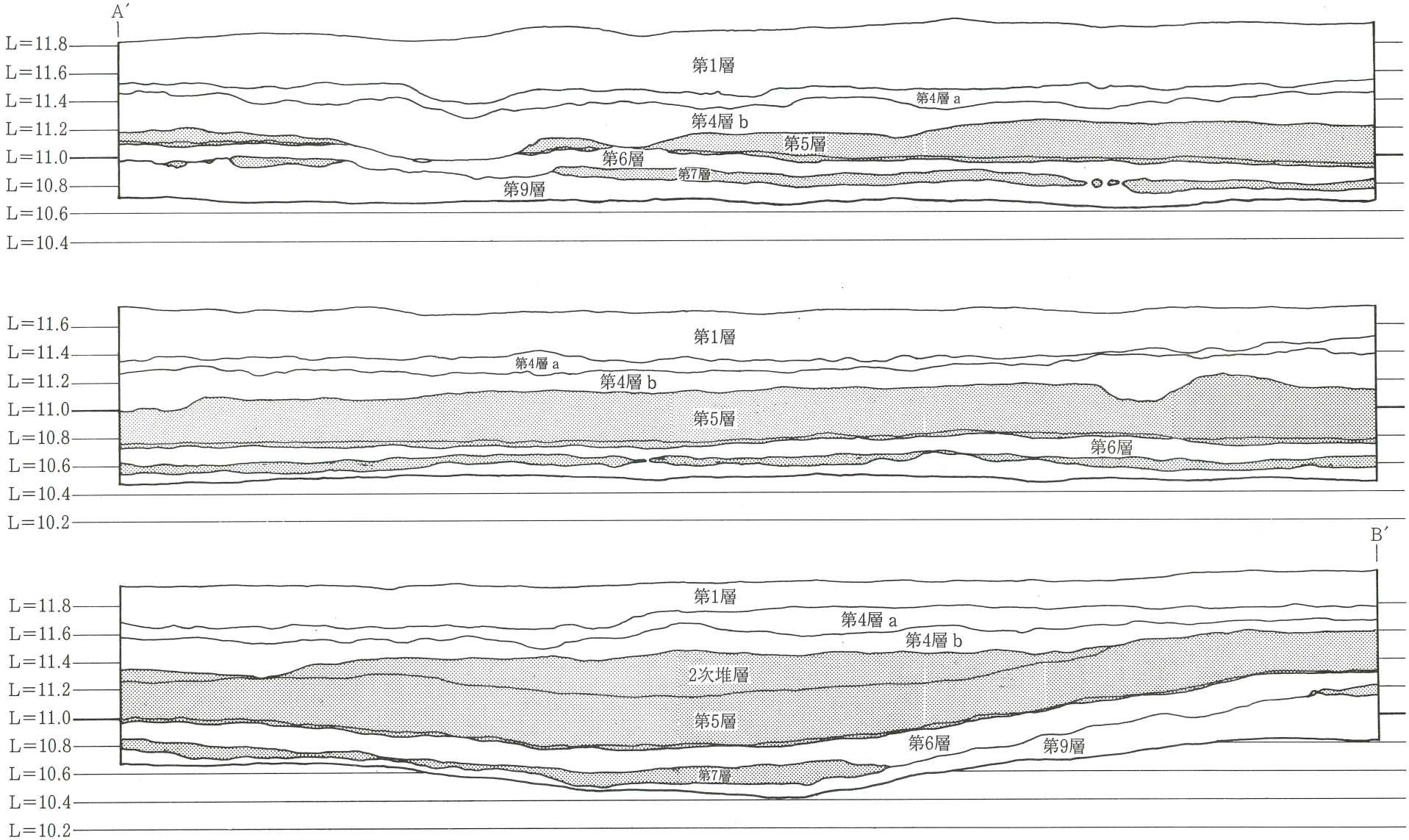
第５層の紫コラは、層厚30㎝の堆積で第６層を被覆している。下層の第６層からは、若干の遺物が出土したが、橋牟礼川遺跡でみられるような畠跡等の遺構は断面を観察する限りに於いては看取されなかった。

第７層の青コラは、10～15㎝の層厚で、紫コラに比べるとルーズな堆積である。下層の第９層は、30㎝前後の堆積で、多量の遺物を包含する。

第10層は、層厚30㎝程度で遺物・遺構の出土はみられなかった。



第９図　層位模式図



第10図　西壁層位断面図(S=1／40)

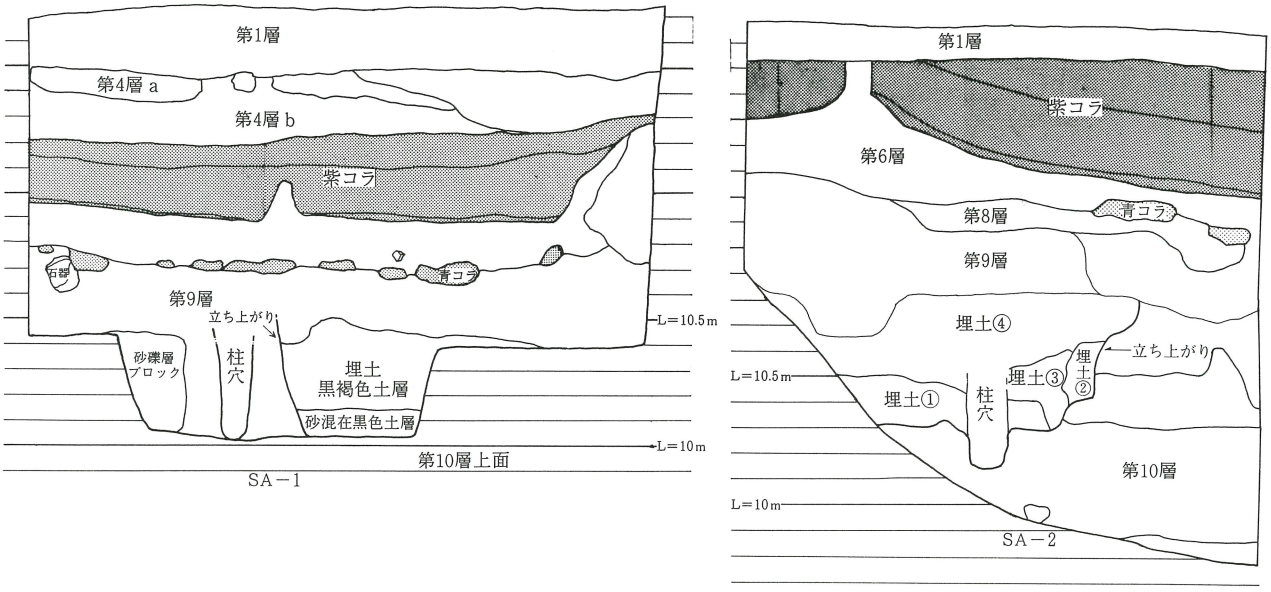
(3) 遺構について

① 竪穴住居について

調査区南端の東側断面と調査区北側の西側断面の２ヶ所に第９層を埋土とする落ち込みを確認した。それぞれ、以下、SA－1、SA－2と仮称したい。

SA－1は、約40cm前後掘り込まれた住居で、隣接して柱穴も検出された。断面においては貼床は確認されなかった。グループ１の土器集中廃棄所が近接して存在する。断面の状況からは、若干、遺物のあるレベルの方が上位にある印象を受けるが、SA－1の確実な掘り込み面が押さえられなかったため、土器集中廃棄所との時期関係については言及できない。

SA－2は、SA－1から北側へ約60ｍ離れた地点から検出された。SA－1と同じく断面での確認で、貼床は確認されなかった。SA－2は、グループ３の土器集中廃棄所、溝状遺構に近接する。埋土の状況から、SA－2の廃絶後、土器集中廃棄所、溝状遺構が形成されている。



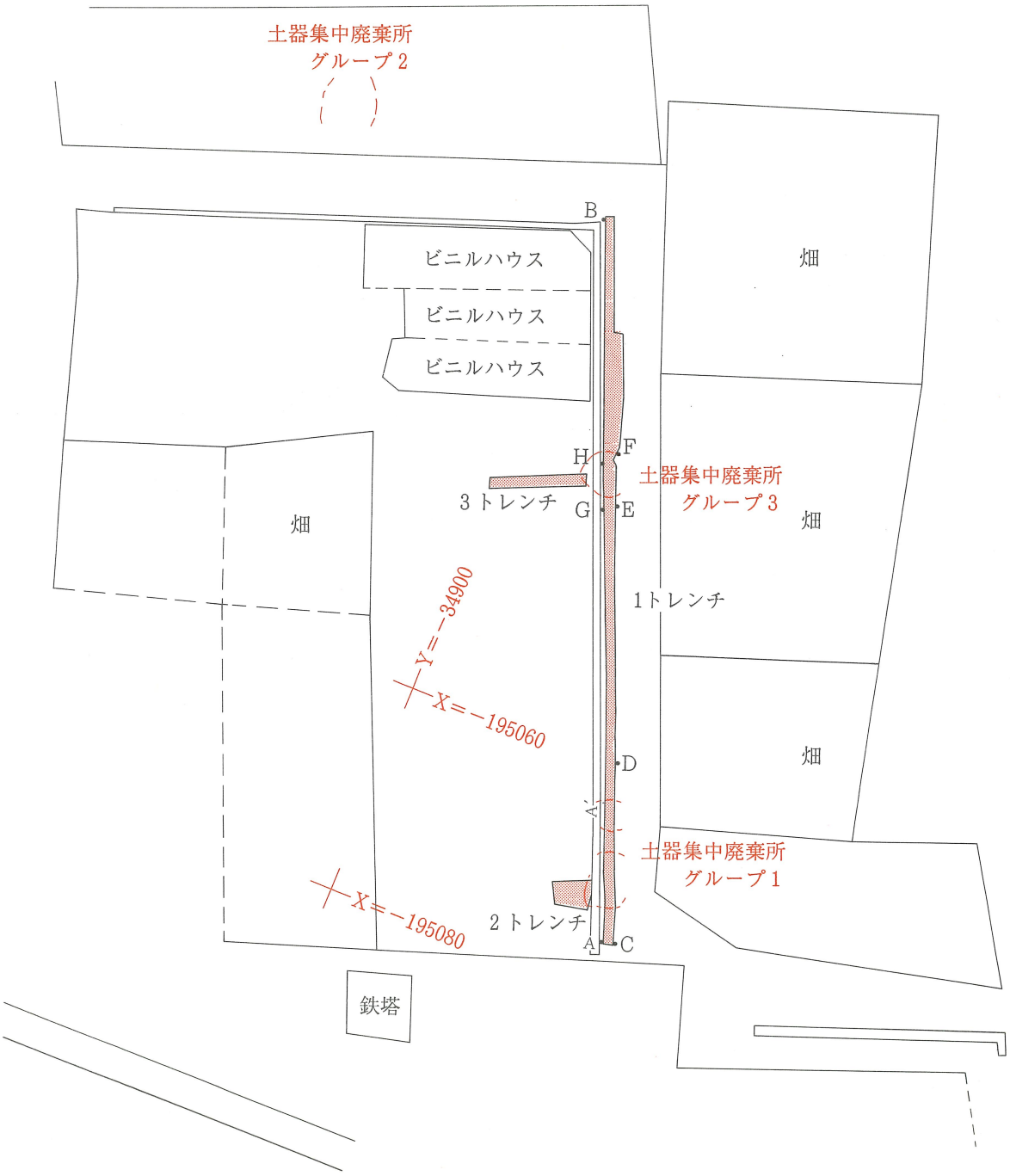
第11図　竪穴住居断面図(S＝1／30)

② 溝状遺構について

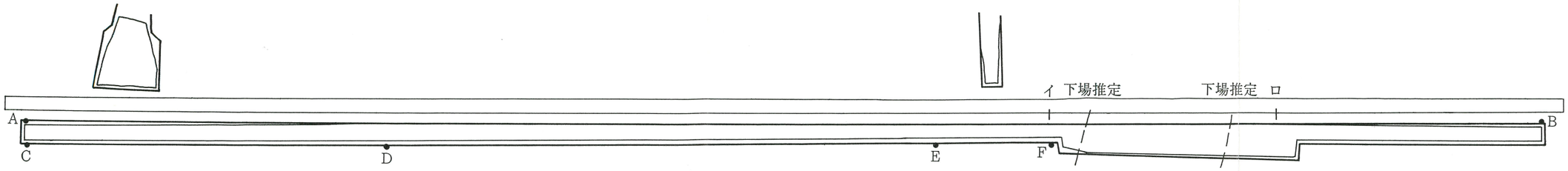
調査区北側の断面に確認された。断面の形状から「溝状遺構」と仮称したが、現状では溝であるのかどうかは断定できず、可能性の一つとして認識するにとどまらざるを得ない。

遺構は上幅約５ｍ，下幅約3.9ｍ、深さ50cm前後の落ち込みで、底面はほぼフラットな状態を呈す。埋土は７層に分層され、周辺から中央に向けて埋まっていた状況を看取することができる。

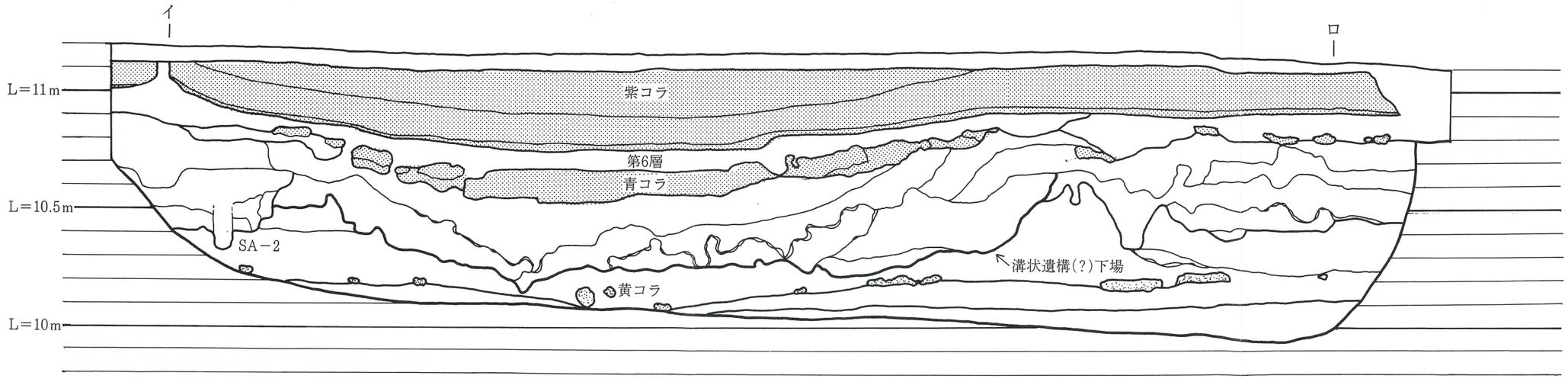
埋土の落ち込みに平行して青コラ火山灰も緩やかに落ち込んでいることから、火山灰降下時には完全に埋まりきっていなかったことがわかる。埋土の堺に下層と著しい不整合を呈しながら褐鉄硬床が発達している部分も認められ、湿地のような状況を呈する時期があったことも想像される。自然流路、あるいは人口的な水路であった可能性も否定できないが、埋土中に砂礫層は認められない。埋土中からは、遺物の出土はほとんどみられなかった。



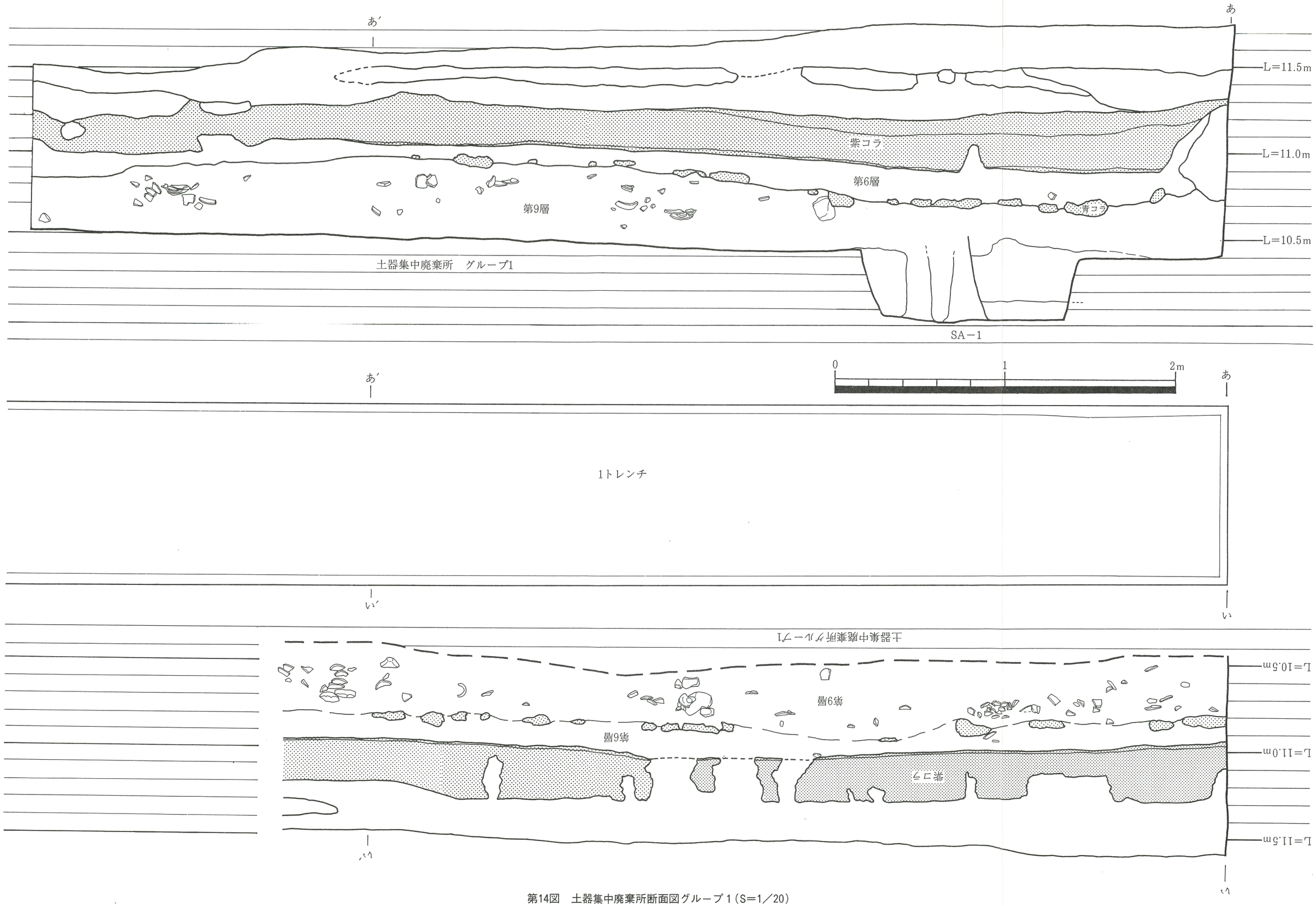
第12図　調査地点全体図(S＝1／600)



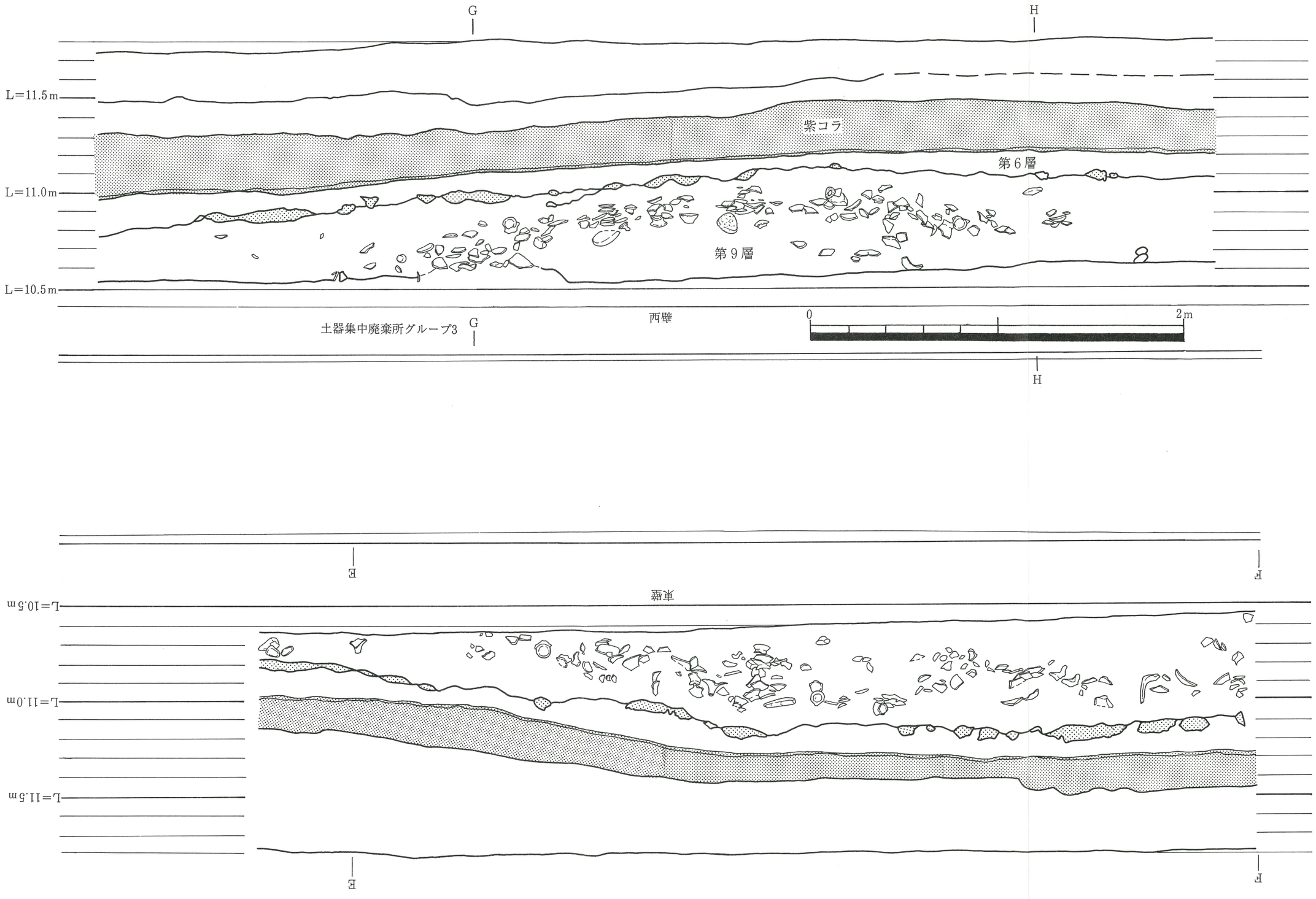
調査区平面(S＝1／200)



第13図　溝状遺構断面図(S＝1／20)



第14図　土器集中廃棄所断面図グループ１（S＝1／20）



第15図　土器集中廃棄所断面図グループ3（S=1／20）

③　土器集中廃棄所について

Ａ．グループ１の土器集中廃棄所について

調査区南側の土器集中廃棄所である。青コラ火山灰層の下に約10ｍにわたって、なだらかな山なりに遺物が堆積している。西側への広がりを確認するために先行トレンチを設けたが、遺物の出土はほとんどみられなかった。

遺物は、第９層中になだらかな山なりに堆積している。そめ上層の青コラの堆積もその傾斜にそっており、部分的には流れてしまったと思われる箇所も観察され、紫コラと比較するとルーズな堆積状況を呈す。

青コラの時期は、橋牟礼川遺跡の発掘調査成果から７世紀後半頃との年代が与えられている。断面の状況を見ると若干の間層をはさんではいるものの、直下で出土している遺物も見受けられることから、青コラ降下時期に近接したころまで遺物が廃棄されていたものと推測される。

廃棄されている遺物の量は、調査した範囲内では、北側にあるグループ３の土器集中廃棄所に比べて少なく、包含層中の土器の密度も薄い。廃棄されている土器群は、「成川式土器」の中でも笹貫式に該当する一群と考えられる。

Ｂ．グループ２の土器集中廃棄所について

１トレンチの北側約20ｍの地点から検出された。宅地造成のための土の入れ替え工事に伴い出土したもので、工事によってそのほとんどが失われていた。散乱した遺物を採集し、断面に残った遺物の範囲から遺構の位置を推定した。グループ１と同時期の遺構で、土器も笹貫式の範疇に入るものである。

Ｃ．グループ３の土器集中廃棄所について

グループ１の土器集中廃棄所から北側に約45ｍはなれた部分から検出された。長さ５ｍにわたって遺物が廃棄されている。グループ１同様、西側に先行トレンチを設け探査したが、一部に遺物を確認したのみで、遺構自体は西側へは広がっていないことが推定される。遺構は緩やかなマウンドを呈し、グループ１より密な状態で30㎝前後の厚さをもって遺物が堆積している。東側断面の上部からは、軽石製の陰石が出土しており注目される。

上層の青コラは、ブロック上に点在する状態で堆積しており、橋牟礼川遺跡でみられるような最初の降下物のスコリアがほとんどみられない。土器は、グループ１、２同様に笹貫式に該当するものと考えられる。

④　各遺構の時期について

グループ１、２、３の土器集中廃棄所は、いずれも青コラ下層に形成された笹貫式の時期に比定しうる遺構で、それぞれ離れた地点から検出されているため、共時的に存在したものか、時間差をもつものであるのかは言及できない。また、出土状況から青コラ火山灰の降下前、すなわち７世紀後半に近いころまで「土器捨て場」として機能していたものと推測される。「成川式土器」の下限については、橋牟礼川遺跡では、笹貫式の甕形土器が７世紀後半まで継続することが確認されているが、本調査地点の状況もその事実に矛盾しないものと思われる。

笹貫式の年代観によれば、おおむね６世紀～７世紀後半までの時期と位置付けられていることから、土器集中廃棄所の年代もその時間幅の中のある時期に形成された遺構群と比定できる。ただし、遺構の形成がいつごろから始まりどの程度存続したのかは現段階では追求することが出来ない。

さて、これら土器集中廃棄所と先述したSA－1、SA－2、溝状遺構との関係を整理すると下記のようになる。

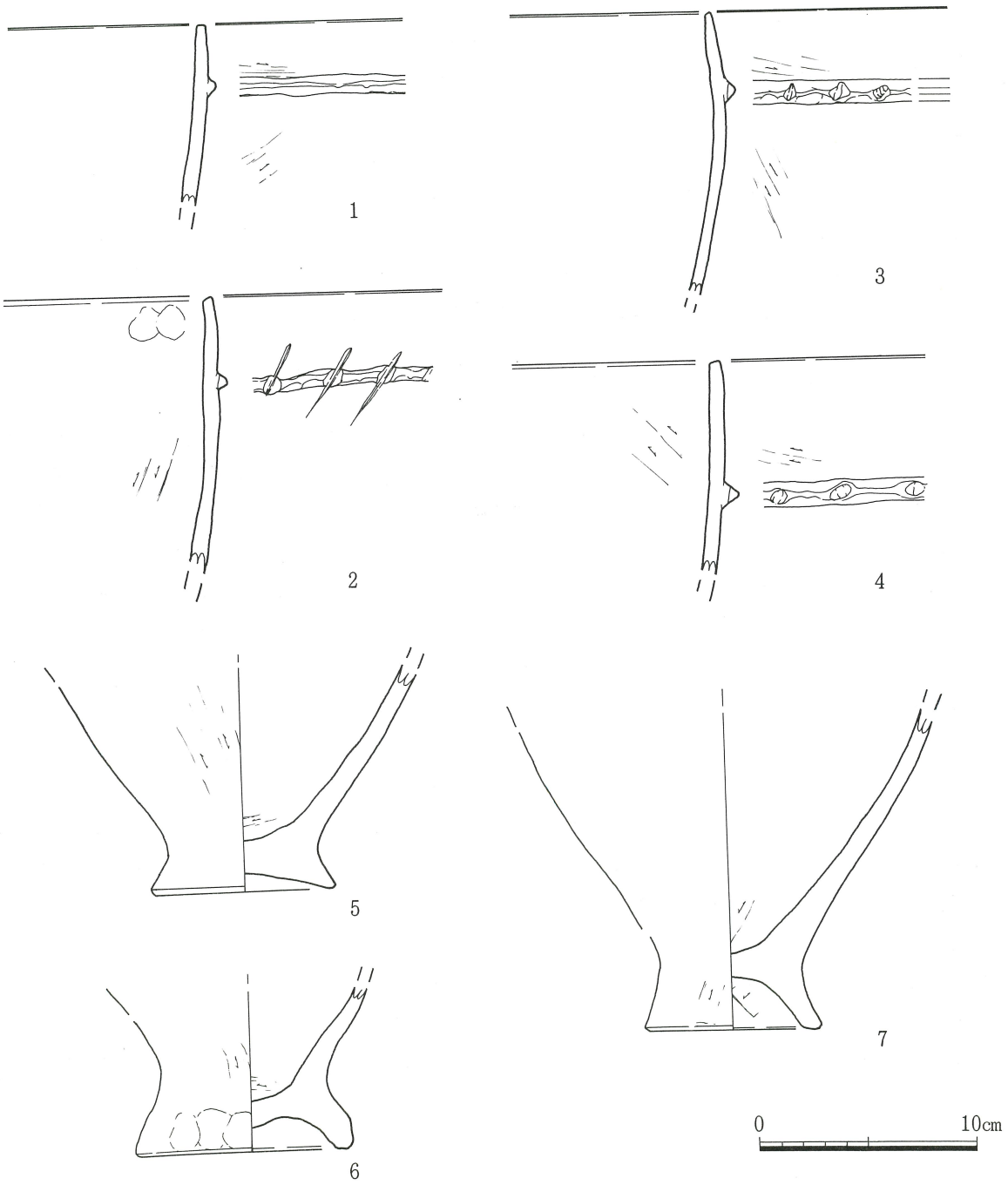
SA－1→　　グループ１
　　グループ２
SA－2→　溝状遺構、グループ３

(4) 遺物について

グループ１の土器集中廃棄所出土遺物

取り上げた遺物のうち図化可能な遺物23点を選別し掲載した。１～７は甕形土器である。

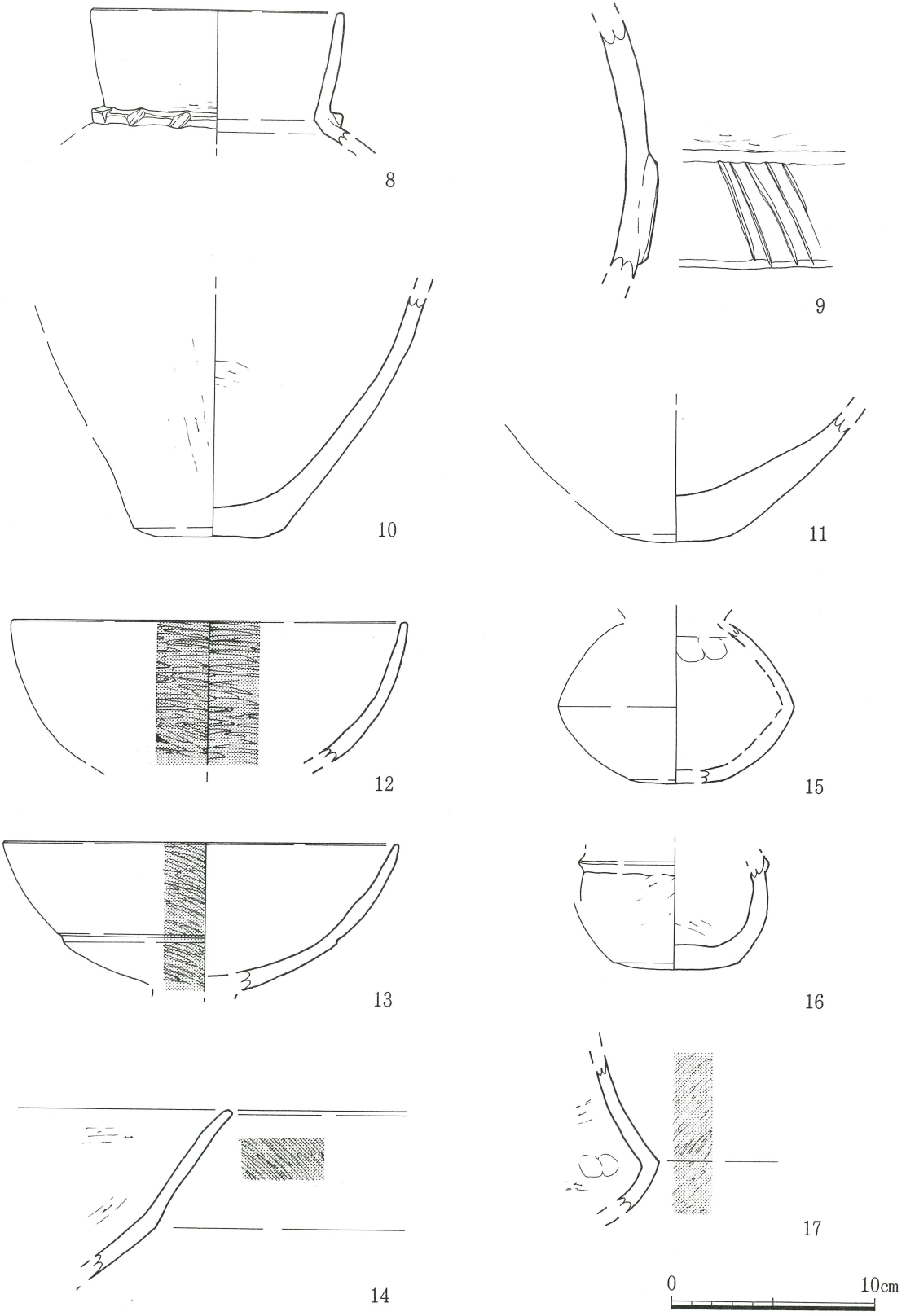
１～４は、口縁部から突帯部にかけての破片である。２、３、４は突帯部に刻みを施す。口縁部は直行からやや内湾するもので、成川式土器の中でも辻堂原式から笹貫式の範疇に入るものと考えられる。５、６、７は底部破片である。底面見込み部が浅いもの(5)、断面がかまぼこ状を呈するもの(6)、中央部が下へふくらむもの(7)の３種が出土している。



第16図　グループ１土器集中廃棄所出土遺物実測図①(S＝1／3)

8は壺形土器の口縁部～頸部屈曲部である。屈曲部には刻み目突帯を巡らす。

9は壺形土器突帯部である。いわゆる「幅広突帯」と呼ばれるもので、突帯部には工具による刻みが施されている。10、11は壺形土器底部である。



第17図　グループ１土器集中廃棄所出土遺物実測図②(S=1／3)

12、13、14は高坏の坏部破片である。丁寧なミガキが施され、赤色塗彩されている。

15、17は坩形土器の胴部～底部の破片である。17は外面に赤色塗彩が施されている。16は小型の壺形土器である。肩部に一条の突帯を巡らす。18～23はミニチュア土器である。18は鉢形土器のミニチュアである。19はボール状を呈する。20は底部が平底を呈す。21は高坏の坏部破片で、内外面ともに赤色塗彩が施されている。22は高坏の脚部破片と考えられる。23は鉢形土器、あるいは甕形土器の底部破片と考えられる。

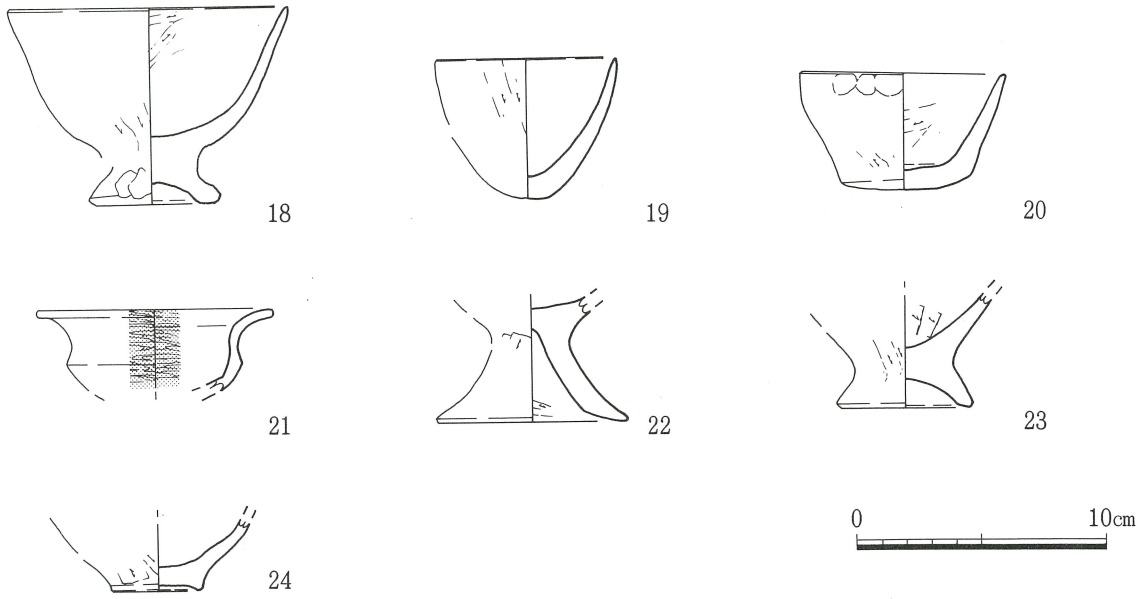
グループ２の土器集中廃棄所出土遺物

１トレンチ北側の宅地造成に伴う土の入れ替え工事中に出土したものであるが、工事によってそのほとんどが失われていた。廃土中から採集した破片のうち図化可能な４点を掲載する。

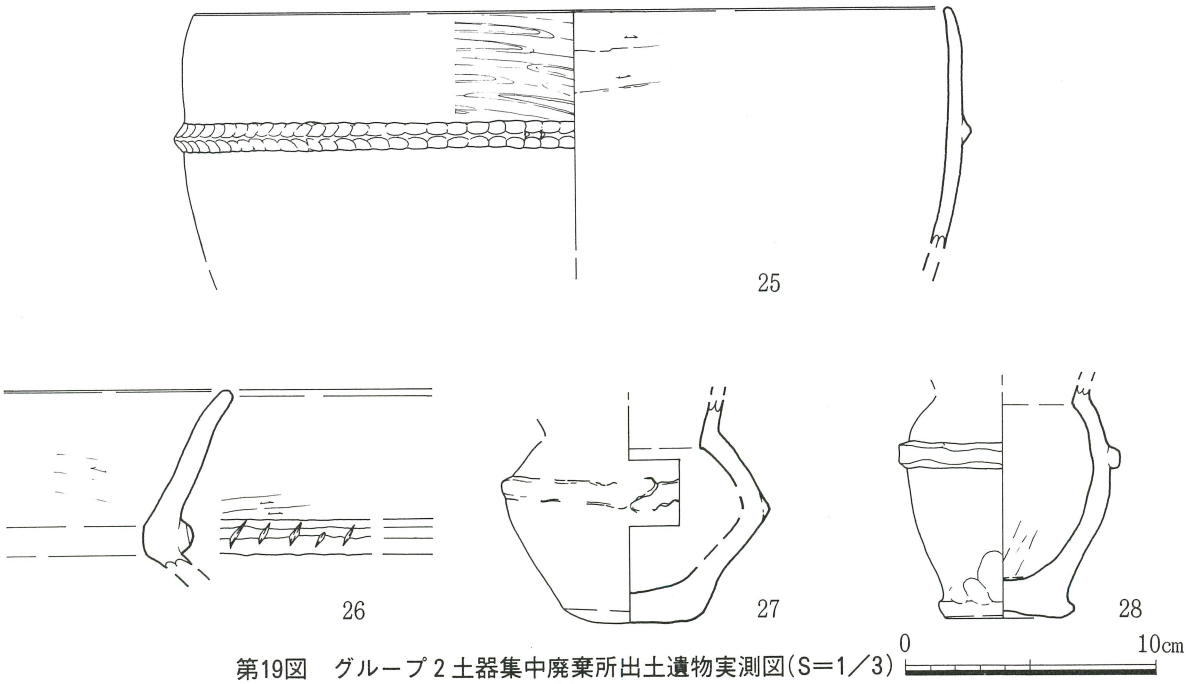
25は甕形土器口縁部～突帯部である。口縁部はやや内湾し、外面はミガキが施されている。口縁部下約4.5cmのところに１状の絡状突帯を巡らす。

26は壺形土器口縁部～頸部屈曲部破片である。屈曲部には１状の刻み目突帯を巡らす。

27、28は平底の小型の壺形土器である。ともに突帯を巡らすが、27は突帯を施した後、丁寧になで消している。



第18図　グループ１土器集中廃棄所出土遺物実測図③(S＝1／3)



第19図　グループ２土器集中廃棄所出土遺物実測図(S＝1／3)

グループ３の土器集中廃棄所出土遺物

取り上げた遺物のうち、図化可能な44点を掲載した。

29～34甕形土器口縁部～突帯部破片である。いずれも口縁部は直行から内湾ぎみに立ち上がり突帯を巡らす。

35、37、38、39は甕形土器底部破片である。見込み部が浅いものと断面がかまぼこ状を呈するものがある。

36は鉢形土器の底部破片と考えられる。

41、42は壺形土器口縁部～頚部屈曲部の破片である。

41は頚部屈曲部に刻み目突帯を巡らす。

42は小型の壺形土器である。外面はミガキが施され、赤色塗彩されている。

43、44は壺形土器突帯部である。

43は頚部屈曲部に半裁竹管文を施す突帯が巡る。

44は「幅広突帯」で、ハの字状の刻みの間に竹管文を施した突帯を巡らす。

45、46、47は壺形土器底部である。46はやや上げ底状を呈し47は平底である。

48～50は高坏の坏部破片である。

48は内外面にミガキが施され、赤色塗彩されている。

51～56は脚部破片である。。

53、54、55は外面にミガキが施され、赤色塗彩されている。

51～56は脚部破片である。

53、54、55は外面にミガキが施され、赤色塗彩されている。

56も赤色塗彩されているが、剥落が激しい。

57～61は坩形土器である。

57は略完形品で、ほぼ丸底を呈す。

58は、口縁部破片、60は胴部破片で、ともに外面はミガキが施され赤色塗彩されている。

62～71はミニチュア土器である。

このうち、62、63、65、66、67、67は坩形土器を模倣したもので、68は外面に赤色塗彩が施されている。

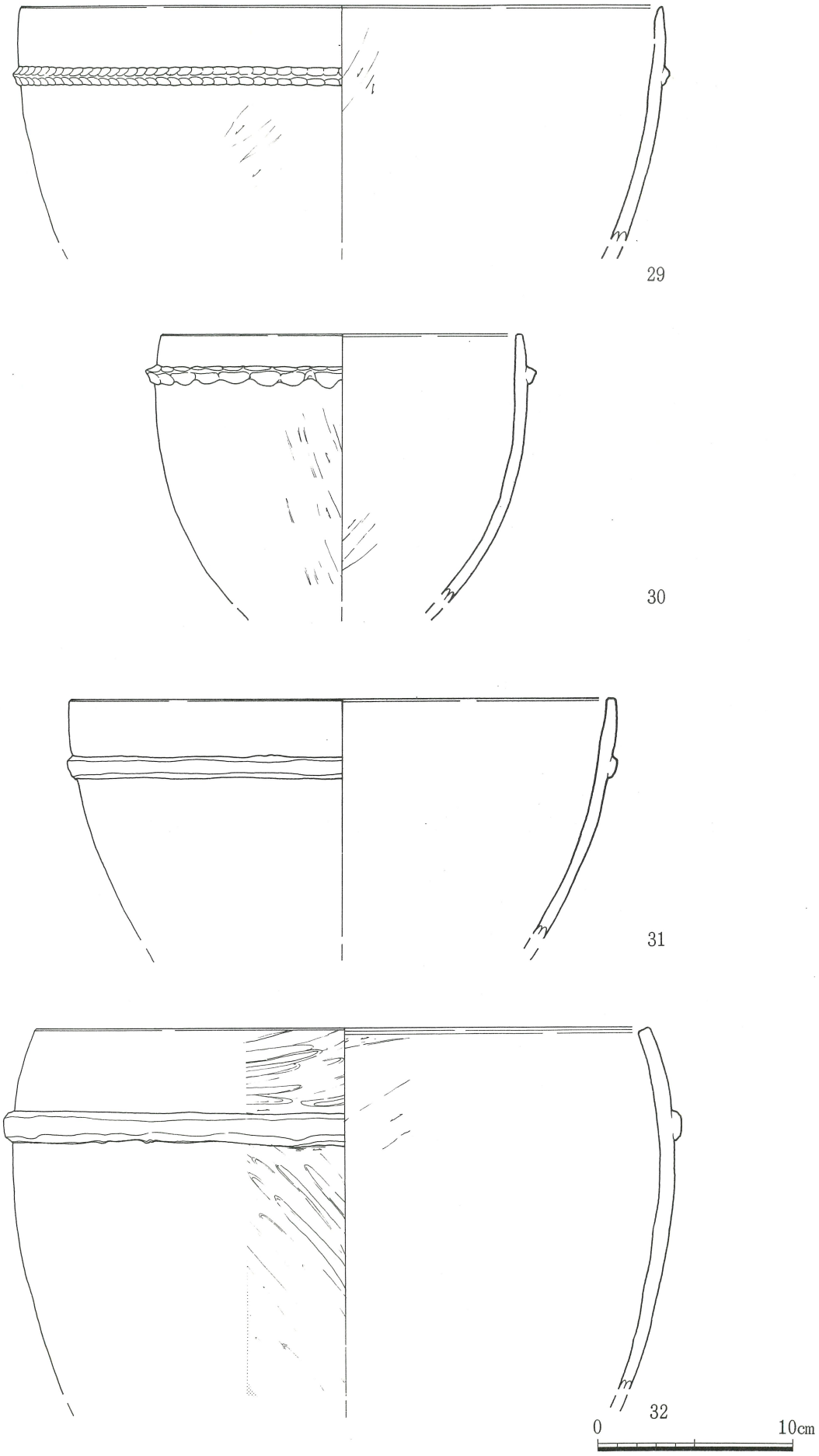
64は壺形土器のミニチュアで突帯を巡らす。

69は鉢形土器のミニチュアである。

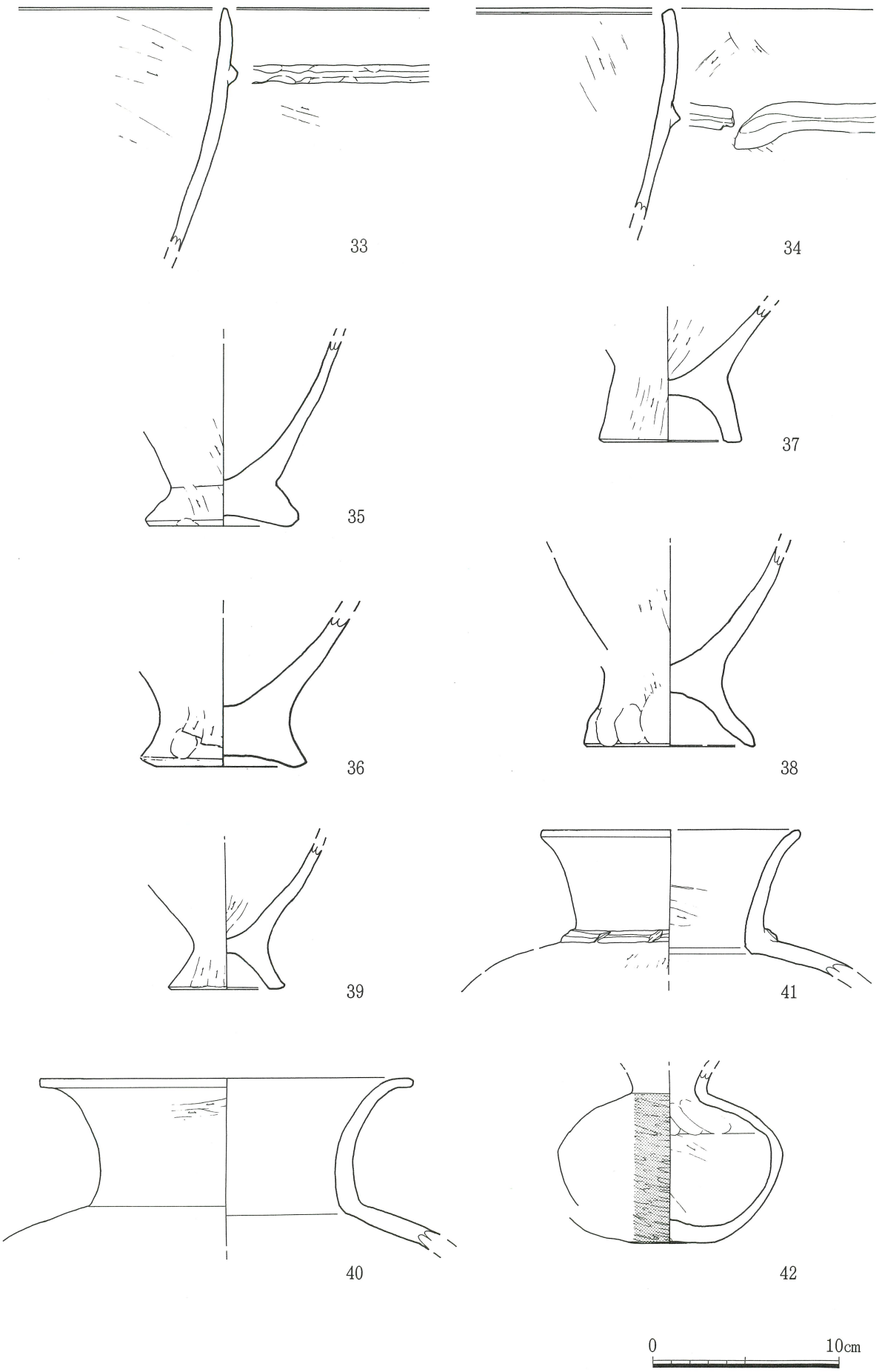
70は甕形土器のミニチュアと考えられ、71は高坏のミニチュアと考えられる。

72は軽石製加工品で陰石と考えられるものである。楕円形の偏平な軽石を研磨したのち中央部に穴が穿たれている。

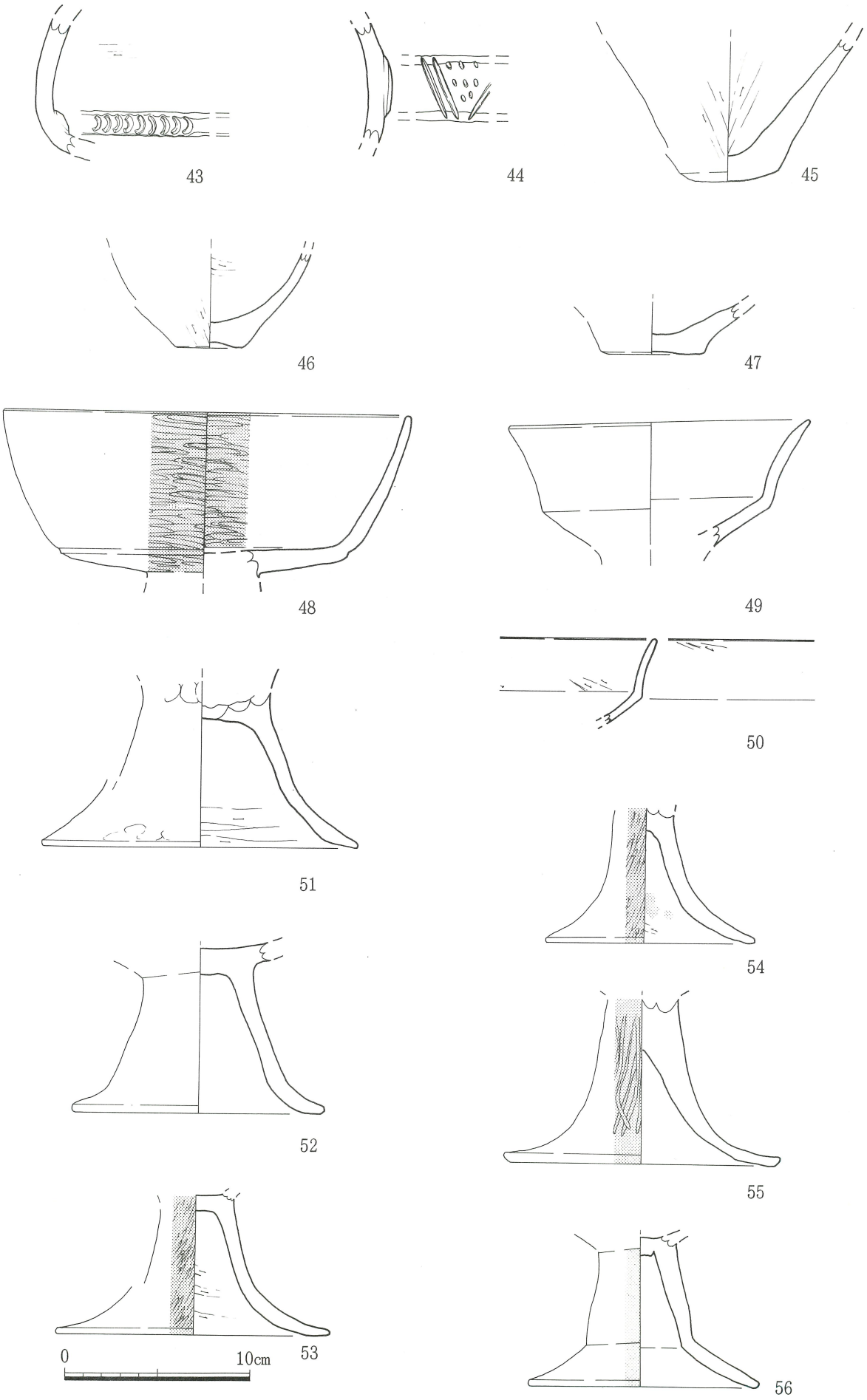
以上72点を掲載したが、グループ１～３の各機種の形態を見ると大きな形式の差は認められず、先述のとおりいずれも辻堂原式から笹貫式に該当する遺物であると考えられる。



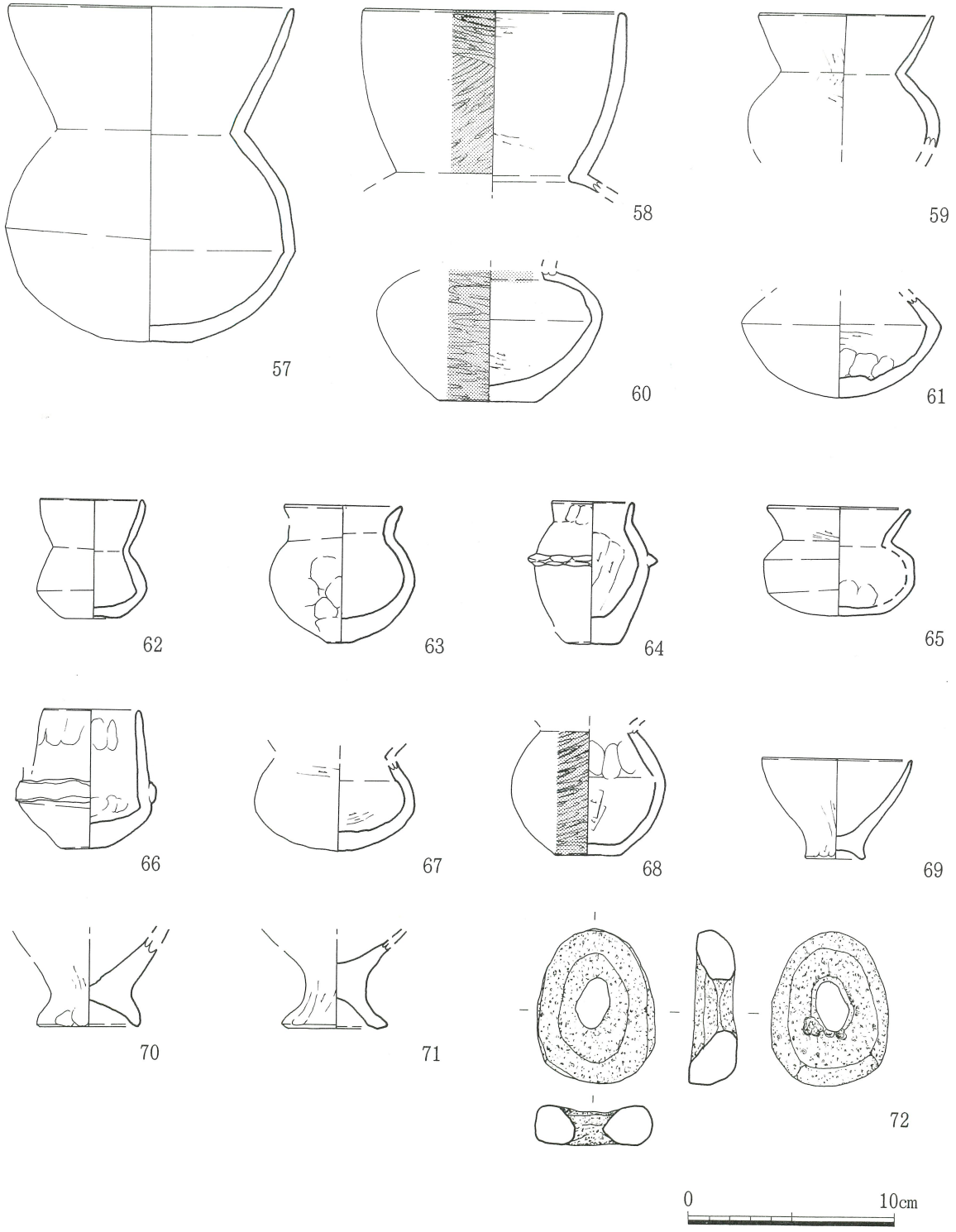
第20図　グループ３土器集中廃棄所出土遺物実測図①(S＝1／3)



第21図　グループ３土器集中廃棄所出土遺物実測図②(S＝1／3)



第22図　グループ３土器集中廃棄所出土遺物実測図③（S＝1／3）



第23図　グループ３土器集中廃棄所出土遺物実測図④(S＝1／3)

遺物観察表 1

図番	取上げNo.	残存法量	器　種	部位	色(外)	色(内)	色(肉)	色(他)	胎土粒	混和材	調　整	その他	接合
1	G1	破片	甕形土器	口縁部 ～ 突帯部	10YR7／2 5Y5／1	10YR7／2 5Y5／1	10YR7／2 5Y5／1	－	砂粒を若干含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	(カ)(セ)(白)(黒)	(内)ナデ (外)工具による ナデのちナデ (口唇)ヨコナデ (突)ヨコナデ		
2	G1	破片	甕形土器	口縁部 ～ 突帯部	5YR6／6 7.5YR6／3	5YR5／6	7.5YR4／1	－	砂粒を若干含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	(カ)(セ)(白)(黒)	(内)コビオサエ、工具による ナデのちナデ(外)工具による ナデのちナデ(口唇)ヨコナデ (突)ヨコナデのちキザミ		
3	G1	破片	甕形土器	口縁部	2.5YR6／6 5YR3／1	2.5YR5／6 5YR3／1	2.5YR5／6 5YR3／1	－	細砂粒を含む	(カ)(セ)(白)(黒)	(内)ナデ (外)ナデ、工具による ナデのちナデ ナデ、(口唇)ヨコナデ (突)ヨコナデのちキザミ		
4	G1	破片	甕形土器	口縁部 ～ 突帯部	7.5YR7／3 7.5YR3／1	2.5YR7／4	2.5YR7／4	－	細砂粒を含む 微砂粒を含む	(カ)(セ)(白)(黒)	(内)工具によるナデ (外)工具によるナデのちナデ、 ナデ、(口唇)ヨコナデ (突)ヨコナデ		
5	G1	破片	甕形土器	底部	N7／0 5YR8／2	5YR7／3 10YR3／1	7.5Y7／1 N4／0	(脚内) 5YR7／2	砂粒を若干含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む		(内)工具によるナデのちナデ (外)工具によるナデのちナデ、 ヨコナデ、(底)ナデ		
6	G1	破片 1／1残存 底径10cm	甕形土器	底部	2.5YR6／6 5YR8／3	7.5YR7／3 5PB少7／1	7.5YR7／3 10YR7／2	(脚内) 2.5YR6／6 N2／0	砂粒を若干含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む		(内)工具によるナデのちナデ (外)工具によるナデのちナデ、 ユビオサエのちナデ、(底)工具 のよるナデのちナデ、ヨコナデ	良好	
7	G1	破片 1／1残存 復元径8.2cm	甕形土器	底部	5YR7／3 10YR8／2	2.5Y2／1	10YR8／1 2.5YR6／6	(脚内) 7.5YR7／4	砂粒を若干含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む		(内)工具によるナデのちナデ (外)工具によるナデのちナデ (底)工具のよるナデのちナデ、 ヨコナデ	反転	
8	G1	破片 2／5残存 12.4cm	壺形土器	口縁部	10R6／4	10R6／4	10R6／4	－	細砂粒を含む 微砂粒を含む	(カ)(セ)(白)(黒)	(内)工具によるナデのちナデ (外)工具によるナデのちナデ (突)ヨコナデのちキザミ、ナデ	反転	
9	G1	破片	壺形土器	突帯部	10R6／6 2.5YR4／2	10R6／6	10R6／6	－	細砂粒を含む 微砂粒を含む	(カ)(セ)(白)(黒)	(内)ナデ (外)工具によるナデ のちナデ、ナデ (突)ナデのちキザミ	良好	
10	G1	破片 1／1残存 (底) 7.6cm	壺形土器	底部	10R5／6 7.5YR6／4	10R5／6	10R5／4	(底)10R5／6 7.5YR7／2 7.5YR6／4	細砂粒を含む 微砂粒を含む	(カ)(セ)(白)(黒)	(内)工具によるナデのちナデ (外)工具によるナデのちナデ (底)工具によるナデのちナデ	良好	
11	G1	破片	壺形土器	底部	2.5YR6／4 5YR5／1	10R6／6	10R6／6 10R5／2	(底) 2.5YR6／2	細砂粒を含む	(カ)(セ)(白)(黒)	(内)ナデ (外)ナデ (底)ナデ	反転	
12	G1	1／3残存 復元径 19.4cm	高坏形土器	口縁部	5YR3／2 7.5YR8／4	2.5YR6／6 5YR7／4	5YR8／4	－	細砂粒を若干含む 微砂粒を若干含む	(カ)(セ)(白)(黒)	(内)ミガキ (外)ミガキ (口唇) ヨコナデ	良好	
13	G1	破片	高坏形土器	口縁部	2.5YR5／8 7.5YR7／6	2.5YR6／8 N3／0 7.5YR7／4	2.5YR5／8 5Y4／1	－	細砂粒を含む 微砂粒を含む	(カ)(セ)(白)(黒)	(内)工具によるナデのちナデ 赤色塗彩、(外)ミガキのち赤 色塗彩、(口唇) ヨコナデ	良好 反転	
14	G1	破片	高坏形土器	口縁部	10R5／6 5YR7／4	7.5YR6／4 7.5YR7／3	10R5／6 7.5YR8／3	－	砂粒を含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	(カ)(セ)(白)(黒)	(内)工具によるナデのちナデ (外)工具によるナデのちナデ (口唇) ヨコナデ		
15	G1	破片 1／2残存復元 (脚) 11.5cm (底)4.5cm	坩形土器	胴部 ～ 底部	2.5YR5／6 N7／0 5YR7／3	N4／0 N2／0	7.5YR6／4 10YR7／1	－	細砂粒を含む 微砂粒を含む	(カ)(セ)(白)(黒)	(内)ユビオサエ、ハクラク (外)工具によるナデのちナデ	反転	
16	G1	2／3残存 (底)6cm	坩形土器	胴部 ～ 底部	2.5YR4／4 7.5YR2／1	10R3／2	10R4／4	(底) 5YR4／2 5YR2／1	細砂粒を含む 微砂粒を含む	(カ)(セ)(白)(黒)	(内)工具によるナデのちナデ (外)工具によるナデのちナデ (底)工具によるナデのちナデ	良好 反転	
17	G1	破片	坩形土器	胴部	2.5YR5／6	2.5YR6／6	2.5YR6／6 7.5YR5／3 7.5Y4／1	－	細砂粒を含む 微砂粒を含む	(カ)(セ)(白)(黒)	(内)工具によるナデのちナデ (外)ミガキのち赤色塗彩	良好 赤色塗彩	
18	G1	略完形 2／3残存 復元径11.1cm (高) 7.9cm	ミニチュア土器 (鉢形土器)	－	10R4／4 5YR4／1	10R4／4 5YR4／1	10R4／4	(底)10R3／2	砂粒を若干含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	(カ)(セ)(白)(黒)	(内)工具によるナデのちナデ (外)工具によるナデのちナデ ユビオサエのちナデ、ミコナデ (底)工具によるナデのちナデ	反転	
19	G1	破片 3／4残存 復元 7.2cm (高) 5.6cm	ミニチュア土器	－	10R6／6 2.5YR4／2	2.5YR5／3 N3／0	10R5／6		細砂粒を含む 微砂粒を含む	(カ)(セ)(白)(黒)	(内)工具によるナデのちナデ (外)工具によるナデのちナデ (口唇) ヨコナデ	良好 反転	

(白) 白色粒、(黒) 黒色粒, (カ) カクセン石、(セ) セキエイ、良好…焼成良好

遺物観察表 2

図番	取上げNo	残存法量	器種	部位	色 外	色 内	色 内	色 他	胎土粒	混和材	調整	その他	接合
20	G1	完形 径8.2cm 高4.7cm	ミニチュア土器	－	5YR6／3 7.5YR2／1	10R3／2	10R4／4	底 5YR4／2 5YR2／1	細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ セ 白 黒	内 工具によるナデのちナデ 外 工具によるナデのちナデ 口唇 ヨコナデ		
21	G1	2／5残存 復元径9.4cm	ミニチュア土器 （高坏土器）	口縁部 ～ 坏部	7.5YR6／6 2.5YR5／8	2.5YR6／8	2.5YR6／8	－	細砂粒を含む 微砂粒を若干含む	カ セ 白 黒	内 ミガキのち赤色塗彩 外 ミガキのち赤色塗彩 口唇 ヨコナデ	良好 赤色塗彩	
22	G1	破片 1／2残存 脚7.7cm	ミニチュア土器 （高坏土器）	脚部	2.5YR5／8	2.5YR5／8	5YR4／3	脚内 2.5YR5／8 7.5YR2／1	細砂粒を含む 微砂粒を含む		内 ナデ 外 工具によるナデのちナデ 脚内 工具によるナデのちナデ 脚端 ヨコナデ	良好 反転	
23	G1	破片 底1／1残存 径底5.5cm	ミニチュア土器 鉢形土器	－	7.5YR6／4	5YR5／4	2.5YR6／6 5YR7／2	底 7.5YR6／6 5YR4／2	細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ セ 白 黒	内 工具によるナデのちナデ 外 工具によるナデのちナデ 底 ナデ、ヨコナデ	良好	
24	G1	破片 底1／1残存 径底 3.8cm	ミニチュア土器 壺形土器	－	7.5YR6／3	N3／0 N5／0	7.5Y7／1	底 10YR5／1	砂粒を若干含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ セ 白 黒	内 ナデ 外 工具によるナデのちナデ 底 ナデ、ヨコナデ	良好	
25	G2	破片 1／3残存 復元	甕形土器	口縁部	10R4／4 2.5YR5／4	5YR6／6 2.5YR4／1	10R4／4 2.5YR5／3		細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ セ 白 黒	内 工具によるナデのちナデ 外 ミガキ、ナデ 口唇 ヨコナデ 突 ヨコナデのちキザミ マメツ、一部ハクラク	焼成良好 ミガキ(外面とったい上) 反転	
26	G2	破片	壺形土器	口縁部 ～ 突帯部	2.5YR6／4 5Y5／1	10YR5／2 7.5YR4／1	10R5／6 N6／0		細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ セ 白 黒	内 工具によるナデのちナデ 外 工具によるナデのちナデ 口唇 ヨコナデ 突 ヨコナデのちキザミ		
27	G2	略完形 底 5.4cm 胴 8.7cm	ミニチュア土器 壺形土器	－	10R5／4 5YR6／3	10R5／4	10R5／4	底 7.5YR6／3 10YR4／1	砂粒を含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む		内 工具によるナデのちナデ 外 ナデ、ヨコナデ 底 ナデ 突 ヨコナデ	良好	
28	G2	略完形 底 5.6cm	ミニチュア土器 壺形土器	－	7.5YR6／6	7.5YR6／6	2.5YR6／4	底 5YR5／4 5YR3／1	砂粒を含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む		内 ナデ 外 ナデ 底 ナデ 突 ヨコナデ(突帯をつけた後ナデ消している)		
29	G3	破片 2／5残存 復元径33cm	甕形土器	口縁部	10R6／6 5YR7／4	10R6／6 5YR7／4 10R4／2	2.5YR3／1 2.5YR6／2	－	砂粒を含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ セ 白 黒	内 工具によるナデのちナデ 外 工具によるナデのちナデ 突 ヨコナデのちキザミ 口唇 ヨコナデ	焼成良好 キザミを施さない所もある 反転	
30	G3	破片 1／2残存 ハケメ×4＋α本／cm	甕形土器	口縁部 ～ 胴部	5YR7／3 2.5YR4／2 2.5YR6／4	5YR7／3 10YR7／1	10YR7／3 10YR3／1	－	細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ セ 白 黒	内 工具によるナデのちナデ 外 工具によるナデのちナデ ハケメのちナデ 突 ヨコナデ 口唇 ヨコナデ	焼成良好 反転	
31	G3	破片 2／5残存 復元径 28.1cm	甕形土器	口縁部 ～ 胴部	10R4／2 5YR2／1	2.5YR5／3 N3／0	2.5YR5／4 10YR6／3	－	細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ セ 白 黒	内 工具によるナデのちナデ 外 ナデ、工具によるナデのちナデ 突 ヨコナデ 口唇 ヨコナデ	反転 焼成良好	
32		破片 1／3～1／4 残存	甕形土器	口縁部	10R5／6	10R6／4 7.5YR7／2	10R6／6 2.5Y7／2	－	砂粒を若干含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ セ 白 黒	内 工具によるナデのちナデ 外 ミガキ 突 ヨコナデ 口唇 ヨコナデ	反転 焼成良好 外面ミガキ	
33		破片	甕形土器	口縁部	2.5YR6／3 5YR6／1	2.5YR6／3	10R6／4	－	砂粒を含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ 白 黒	内 工具によるナデのちナデ 外 ナデ、工具によるナデのちナデ 突 ヨコナデ 口唇 ヨコナデ	焼成良好 傾きギモン	
34	G3	破片	甕形土器	口縁部	2.5YR6／2 2.5YR5／8	5YR6／2 5YR5／3	2.5YR5／4 10YR6／2	－	細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ 白 黒	内 工具によるナデのちナデ 外 工具によるナデのちナデ 突 ヨコナデ 口唇 ヨコナデ	焼成良好 傾きギモン	
35	G3	破片 1／1残存 底径 8.3cm	甕形土器	底部	2.5YR7／2 5YR7／1	5YR7／4 5YR5／2	5YR7／2	底 2.5YR7／2 5YR7／1	細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ セ 白 黒	内 工具によるナデのちナデ 外 工具によるナデのちナデ、ヨコナデ 底 ナデ	良好	
36	G3	破片 1／1残存 底径 8.9cm	甕形土器	底部	5YR6／6	5YR6／3	10R6／6	底 5YR5／2	細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ セ 白 黒	内 工具によるナデのちナデ 外 工具によるナデのちナデ 一部ユビオサエ 底 工具によるナデのちナデ、ヨコナデ	良好	
37	G3	破片 1／1残存 底径 7.2cm	甕形土器	底部	7.5YR6／2	7.5YR7／4	7.5YR7／4	脚内 7.5YR5／1	砂粒を若干含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ セ 白 黒	内 工具によるナデのちナデ 外 ナデ、工具によるナデのちナデ 底 ヨコナデ 脚内 ナデ	良好 反転	
38	G3	破片 1／1残存 底径 9.2cm	甕形土器	底部	10R4／6 5YR7／2	7.5YR8／3 7.5YR2／1	10R6／4 7.5YR6／1	脚内 5PB5／1 5YR7／3	細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ セ 白 黒	内 工具によるナデのちナデ 外 工具によるナデのちナデ 脚内 工具によるナデのちナデ 脚端 ヨコナデ	良好	

白 白色粒、黒 黒色粒、カ カクセン石、セ セキエイ、良好…焼成良好

遺物観察表 3

図番	取上げNo.	残存法量	器種	部位	色 外	色 内	色 内	色 他	胎土粒	混和材	調整	その他	接合
39	G3	破片 1／1残存 底径6.5cm	鉢形土器	底部	5YR6／3	2.5YR5／6 7.5YR4／1	5YR7／4 2.5Y3／1	脚内 2.5YR5／4	砂粒を若干含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ セ 白 黒	内 工具によるナデのちナデ 外 工具によるナデのちナデ 脚内 工具によるナデのちナデ 脚端 ヨコナデ	焼成良好	
40	G3	破片 1／2残存 復元径 20.1cm	壺形土器	口縁部 ～ 頸部	10R6／3 N7／0	10R6／4 2.5YR7／3	2.5YR7／6 7.5YR7／2	－	細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ セ 白 黒	内 工具によるナデのちナデ 外 工具によるナデのちナデ 口唇 ヨコナデ	反転 良好	
41	G3	破片 口 1／4残存 頸 1／2残存 復元径13.7cm	壺形土器	口縁部 ～ 頸部	2.5YR6／6 5YR6／4	2.5YR6／6	2.5YR6／6	－	砂粒を若干含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ セ 白 黒	内 工具によるナデのちナデ 外 ナデ、ヨコナデのちキザミ 工具によるナデのちナデ 口唇 ヨコナデ	反転 良好	
42	G3	3／5残存 復元胴径 12cm	壺形土器	－	2.5YR6／6 7.5YR7／4	5YR7／4	2.5YR6／6 5YR7／4	底 2.5YR6／6	細砂粒を若干含む 微砂粒を若干含む	カ セ 白 黒	内 ナデ、ユビオサエ、工具によるナデのちナデ 外 ミガキのち赤色塗彩 底 ミガキのち赤色塗彩	反転 良好 外面、内面一部赤色塗彩	
43	G3	破片	壺形土器	突帯部	5YR7／6 7.5YR7／4	7.5YR7／4	7.5YR7／4 N3／0	－	砂粒を含む 細砂粒を多く含む 微砂粒を多く含む	カ セ 白 黒	内 マメツ 外 工具によるナデのちナデ 突 ヨコナデのち半さい竹管文	傾きギモン	
44	G3	破片	壺形土器	突帯部	5YR6／4	2.5YR6／4	10R6／4	－	砂粒を若干含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ セ 白 黒	内 工具によるナデのちナデ 外 工具によるナデのちナデ 突 ココナデのちキザミ	良好 傾きギモン	
45	G3	破片	壺形土器	底部	2.5YR7／3	10R5／6 5YR8／3	10R5／6	底 10R5／6	砂粒を若干含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ セ 白 黒	内 工具によるナデのちナデ 外 ハケメのちナデ 底 ナデ	反転 良好 ハケメ、4＋α本／cm	
46	G3	破片 1／1残存 底 3.9cm	壺形土器	底部	10R5／6 5YR6／3	2.5YR5／4	5YR6／4	底 2.5YR3／1	細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ セ 白 黒	内 工具によるナデのちナデ 外 工具によるナデのちナデ ハケメのちナデ 底 ナデ	反転 良好 ハケメ、5＋α本／cm	
47	G3	破片 1／1残存 底 5.6cm	壺形土器	底部	10R6／4 2.5Y8／1	10R6／4	10R6／4 7.5YR8／2	底 7.5YR7／3	砂粒を若干含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ セ 白 黒	内 ナデ 外 ナデ 底 ナデ	反転 良好	
48	G3	破片 2／5残存 復元径22cm	高坏形土器	坏部	10R6／8 N3／0	10R6／8	10R6／8	－	細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ セ 白 黒	内 ミガキのち赤色塗彩 外 ミガキ、赤色塗彩	反転 良好 内外面とも赤色塗彩	
49	G3	破片 口 3／4残存 口 16.0cm	高坏形土器	口縁部	5YR7／3 2.5YR4／2	2.5YR6／2 2.5YR3／1	2.5YR4／2	－	砂粒を含む 細砂粒を多く含む	カ セ 外	内 ナデ 外 工具によるナデのちナデ 口唇 ナデ	反転 良好	
50	G3	破片	高坏形土器	口縁部	7.5YR7／4 5YR6／6	5YR6／6 7.5YR3／2	7.5YR7／4 10YR5／1	－	細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ セ 白 黒	内 工具によるナデのちナデ 外 工具によるナデのちナデ 口唇 ヨコナデ	反転	
51	G3	脚 1／2～1／3残存 脚 最大復元 16.8cm 最小 6.7cm	高坏形土器	脚台部	10R5／8 7.5YR6／2	－	10R5／8 2.5YR7／3	脚内 7.5Y2／1	細粒を含む 細砂粒を多く含む	カ セ 白 外	内 工具によるナデのちナデ 脚内 ナデ、工具によるナデのちナデ 脚端 ヨコナデ	良好 反転	
52	G3	脚 1／1残存 脚 最大13.4cm 最小 6.7cm	高坏形土器	脚台部	10R6／6 5YR7／3	10R6／6	10R6／6	脚内 2.5YR6／4 5YR4／1	砂粒を若干含む 細砂粒を多く含む	カ セ 白 ウンモ 外	内 ミガキ、ややマメツ 外 ミガキ、工具によるナデのちナデ 脚内 ナデ、ややマメツ 脚端 ヨコナデ	良好	
53	G3	破片 2／3残存 復元径4.7cm	高坏形土器	脚台部	10R4／6	2.5YR5／2	5YR4／2	脚内 5YR4／2 10R5／6	細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ セ 白 黒	外 ミガキのち赤色塗彩 脚内 工具によるナデのちナデ ナデのち赤色塗彩 脚端 ヨコナデ	良好 内外面とも赤色塗彩	
54	G3	1／1残存 11.3cm	高坏形土器	脚台部	10R4／6 7.5YR6／3	－	5YR5／2 5Y7／6	脚内 7.5YR7／4 10R4／4	細砂粒を若干含む 微砂粒を若干含む	カ セ 白 黒	内 ミガキのち赤色塗彩 脚内 工具によるナデのちナデ 脚端 ヨコナデ	良好	
55	G3	脚 1／3～1／4残存 脚 最大14.1cm 最小3.8cm	高坏形土器	脚台部	2.5YR6／4	－	2.5YR7／6 10YR6／1	脚内 2.5YR7／6 10YR6／1	微砂粒を含む	カ 白 外	外 ミガキ赤色塗彩 脚内 ナデ、ミガキ 脚端 ヨコナデ	良好	
56	G3	脚 1／2残存 最大 12.0cm 最小 4.1cm	高坏形土器	脚台部	5YR7／3 7.5YR7／1	5YR7／3	5YR7／3 2.5Y6／1	脚内 N6／0 7.5YR7／1	細砂粒を含む	カ セ 白 外	内 ミガキ 外 ミガキのち赤色塗彩 脚内 ナデ	良好	
57	G3	破片 口 1／5残存 脚 ～ 底 4／5残存 復元径 13.6cm 高さ 16.2cm	坩形土器	口縁部 ～ 底部	2.5YR7／6 5YR7／3	2.5YR7／6 2.5Y7／1	2.5YR7／6	底 5YR7／2	砂粒を若干含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ セ 白 黒	内 ナデ 外 ナデ 口唇 ヨコナデ	良好 反転	

白 白色粒、黒 黒色粒、カ カクセン石、セ セキエイ、良好…焼成良好

遺物観察表 4

図番	取上げNo.	残存法量	器種	部位	色 外	色 内	色 肉	色 他	胎土粒	混和材	調整	その他	接合
58	G3	破片 口2／5残存 復口径12.7cm	坩形土器	口縁部	2.5YR6／8	5YR7／6	2.5YR6／8 5YR7／6	－	砂粒を若干含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ セ 白 黒	内 工具によるナデのちナデ 外 ミガキのち赤色塗彩 口唇 ヨコナデ	良好 赤色塗彩	
59		破片 口縁～胴部 2／5残存 復元径口8.4cm	ミニチュア土器 坩形土器	－	2.5YR6／3 2.5YR5／2	5YR6／2 10YR6／3	5YR4／2 2.5YR6／4	－	細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ セ 白 黒	内 ナデ 外 工具によるナデのちナデ 口唇 ヨコナデ	反転 良好	
60	G3	破片 3／5残存 復元胴径 10.8cm	坩形土器	胴部	10R5／8 5YR7／6	7.5YR7／6	7.5YR7／6	底 5YR7／6	砂粒を若干含む 細砂粒を若干含む 微砂粒を含む	カ セ 白 黒	内 ナデ、工具によるナデのちナデ 外 ミガキ、赤色塗彩 底 ナデ	良好 反転 外面頸部屈曲部内面赤色塗彩	
61	G3	破片 復元胴径 9.4cm	坩形土器	胴部	10R6／6 5YR7／2	10R6／6 5YR7／2	10R6／6 5YR7／2	底 5YR7／2	砂粒を若干含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ セ 白 黒	内 工具によるナデのちナデ 外 ナデ	良好	
62	G3	口1/2~1/1残存 胴1/1 〃 底1/1 〃 口復元 4.9cm 胴 〃 5.3cm 底 〃 2.4cm 高5.75cm	坩形土器	－	7.5YR7／3 7.5YR6／6	7.5YR7／3 10YR5／4	10YR7／3	底 7.5YR7／4	細砂粒を含む	カ セ 白 外	内 ナデ 外 ナデのちミガキ	良好	
63	G3	口1/3~1/4残存 胴1/1 〃 底1/1 〃 口復元 5.6cm 胴 〃 6.9cm 底 〃 1.4cm 高 〃 6.6cm	坩形土器	－	N6／0 7.5YR6／4	N6／0 10YR6／2	10YR6／2	底 5YR6／4	細砂粒を多く含む	カ セ 白 外	内 ナデ 外 ナデ 口唇 ヨコナデ	良好	
64	G3	略完形 3／4残存	ミニチュア土器 壺形土器	－	2.5YR6／4 7.5YR6／2	5YR7／3	5YR7／3 2.5YR5／6	底 10YR6／3	砂粒を若干含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ セ 白 黒	内 工具によるナデ 外 ユビオサエのちナデ、ナデ 口唇 ヨコナデ 突 ヨコナデ	良好 反転	
65	G3	完形 口1／10欠損 口径 7cm 胴径 7.2cm 高さ 5.3cm	ミニチュア土器 坩形土器	－	2.5YR4／6 5YR8／4	2.5YR4／6	2.5YR6／8	底 7.5YR3／1 5YR7／4	細砂粒を多く含む 微砂粒を含む	カ セ 白 黒	内 ナデ 外 工具によるナデのちナデ ナデ 口唇 ヨコナデ	良好	
66	G3	口1/2~1/3残存 胴1/1 〃 底1/1 〃 口復元 4.5cm 胴 〃 6.3cm 底 〃 2.5cm 高 〃 6.8cm	坩形土器	－	5YR7／3 10YR4／1	7.5YR6／1 2.5Y6／1	7.5YR7／2	底 7.5YR6／1	細砂粒を含む	カ セ 白 外	内 ナデ 外 ナデ、工具によるナデのちナデ 口唇 ヨコナデ 突 ヨコナデ	良好	
67	G3	破片 胴1／1残存 径 7.7cm	ミニチュア土器 坩形土器	胴部	5YR5／6	5YR5／6	7.5YR7／6	底 7.5YR7／6	砂粒を若干含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ セ 白 黒	内 工具によるナデのちナデ 外 工具によるナデのちナデ		
68	G3	破片 胴1／1残存 胴径 7.4cm	ミニチュア土器 坩形土器	胴部	10R5／4 2.5YR3／1	5YR2／1 5YR5／2	10R5／4	底10R4／2	砂粒を若干含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ セ 白 黒	内 ユビオサエのちナデ 工具によるナデのちナデ 外 ミガキ	良好 外面ミガキ 反転	
69	G3	破片 1／2残存 復元口径7.2cm 高さ4.85cm	ミニチュア土器 鉢形土器	－	10R6／4 5YR7／4	7.5YR6／4 2.5Y4／1	2.5YR4／3	底 2.5YR5／4	細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ セ 白 黒	内 ナデ、外 工具によるナデのちナデ、ヨコナデ 底 ナデ	良好 反転	
70	G3	破片 底1／1残存	ミニチュア土器 甕形土器	底部	5YR7／6 2.5YR6／2	7.5YR7／4	N6／0	脚内 5YR6／6	砂粒を若干含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ セ 白 黒	外 工具によるナデのちナデ 一部ユビオサエ 外 工具によるナデのちナデ 脚内 ナデ 脚端 ヨコナデ	良好	
71	G3	破片 底1／1残存 底径 5.1cm	ミニチュア土器 鉢形土器	底部～坏部	2.5YR7／4	5YR6／2	5YR7／2	脚内 5YR7／3	細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ セ 白 黒	内 ナデ 外 工具によるナデのちナデ、ユビオサエのちナデ 脚内 工具によるナデのちナデ 脚端 ヨコナデ	良好	
72	G3	完形 長 7.4cm 短 5.6cm 厚 2.3cm 重 20g	軽石製陰石									全体磨面	

白 白色粒、黒 黒色粒, カ カクセン石、セ セキエイ、良好…焼成良好

(5) ま と め

迫田遺跡で得た新知見と今後の課題を整理しまとめとしたい。

まず、土器集中廃棄所、住居跡など古墳時代集落の一部が新たに発見されたことがあげられる。これまで指宿地方においては、橋牟礼川遺跡、敷領遺跡、尾長谷迫遺跡、宮之前遺跡、片野田遺跡などで発見されている。橋牟礼川遺跡においては、住居跡や土器集中廃棄所、貝塚、道路跡などの集落構造の解明が進みつつあるが、集落を構成するこうした要素が迫田遺跡にも散見される。

溝状遺構の性格については、吹上町辻堂原遺跡や喜入町西船子遺跡などで検出されている集落境界の溝の可能性がある。橋牟礼川遺跡では、河川に下る斜面や溝状遺構の付近など居住域の縁辺に土器集中廃棄所が設けられている。グループ3の土器集中廃棄所との位置関係も、この遺構が溝である可能性を指示する根拠の一つとなる。

また、先にあげた自然流路など自然地形の可能性が考えられる。底面近くに発達している褐鉄硬床の状況もその可能性を示唆している。いずれにしても、遺跡の範囲の把握と同様に、この溝状遺構の周辺を探査しその状況を確認することが肝要である。

土器集中廃棄所については、笹貫式土器の時期の遺構であることが確認された。橋牟礼川遺跡や西船子遺跡と同様に甕形土器や壷形土器などの日常容器に加えて、軽石製陰石やミニチュア土器、赤色塗彩された高坏などの祭祀遺物も出土している。縄文時代の土器廃棄については、役目の終わったものを自然に送り返す「もの送り」的な考え方が背景にあるとの見解もあり、土器集中廃棄所もそうした考え方に基づいて形成された遺構の可能性が考えられる。

さて、指宿においては先述のとおり迫田遺跡を含めて6ヶ所の古墳時代集落の存在が知られている。いずれも7世紀後半の極めて固結した開聞岳火山灰に覆われており、後の再開発を受けていなかった。そうしたことからも、指宿では古墳時代の遺跡が他の地域に比べて良好な状態で残っていることが期待され、古墳時代の集落構造を把握する一つのモデルケース的な地域としての重要性が浮かび上がってきた。

今後、各遺跡の広がりや性格を把握していくことで、指宿における古墳時代の集落構造や社会構造の解明につながるものと期待される。

SUMMARY

We will show the new knowledge and problems of the Sakoda site. At first, we newly found a part of the Kofun Age village, its dwelling pits and a spot of pottery dumping at the Sakoda site. These were found at the Hashimuregawa site, the Shikiryo site, the Obasezako site, the Miyanomae site, and the Katanoda site. Elements, dwelling pits, spots of pottery dumping, shell mounds and path which construct the village at the Hashimuregawa site are now showing? Some of these were also found at the Sakoda site. The ditch shaped remains show the border of the village which was found at the Tsujidoubaru site in Hukiage City and the nishifuneko site in Kiire City. We found the spot of pottery dumping at the slope to the river and at and around the ditch at the Hashimuregawa site. The situation of the group 3 spot of pottery dumping is one of the reasons that the remains were around the ditch. And it may also be possible that the remains are in the river. The deposit of brown colored iron suggests this idea. We need to survey around this site of the ditch and confirm the condition of site.

The spot of pottery dumping is of the age of the Sasanuki type pottery. We found many daily tools, such as urns and vessels, and ritual tools such as minitua potteries, and red colored potteries. There are seven villages of the Kofun age in Ibusuki City. Of these, many remain in good condition because they were covered with volcanic ash of the later part of the 7th century from Mt. kaimondake. Ibusuki area will be more important as a model area to grasp the construction of the Kofun age village and the society of the Kofun age of Ibusuki City by grasping the expanse and property of each site.

(original Koutarou Nakama, proof-reading Basalaj Nikolai Piper)